

財団法人日本タイ協會々報

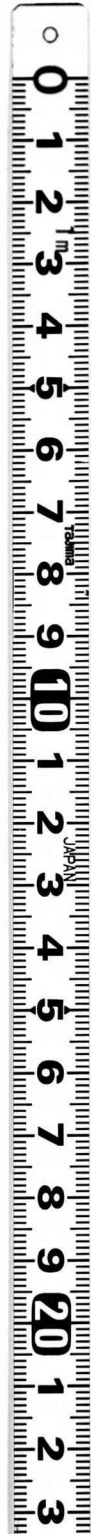
第二十九號

昭和十七年八月

昭和十七年八月

法財團 日本タイ協會々報 第二十九號

法財團 日本タイ協會



財團 日本タイ協會編 最新刊

タイ國通史

タイ國は昨年十二月の日タイ攻守同盟に續いて本年一月五日に至り、遂に米英に對し干戈を執つて起つたが、去る四月下旬、ブラーヤー・パホン中將を首班とする同盟慶祝使節及びそれに先行せるワニット無任所相等の經濟委員と、わが關係者間にすゝめられた具體的交渉により經濟的の完全なる協力態勢成り、相共に米英撃滅大東亞共榮圈建設の大業に邁進しつゝあるのである。

規格B列6號三〇〇頁
美麗口繪・寫眞十七頁
定價貳圓五拾錢(送料二十錢)

—— 內容目次 ——

タイ國黎明史——タイ國の位置——タイ國の先住民族——優秀なるタイ民族——南詔王國の建設——ムアン・タイの建設

スコタイ王朝史——偉大なるラーマカムヘン大王——スコタイ王朝の末期

アユタヤ王朝史——神秘的英雄兒ウーントロイ——ロク・ナート王の治蹟——ポルトガル人の渡來——ピルマのアユタヤ侵寇——アユタヤ王國の復活——和蘭の東洋侵略——日本民族のタイ國發展史——英國のタイ國進出——ピルマとの葛藤——日タイ國交と山田長政の活躍——アユタヤ王朝の滅亡

バンコック王朝史——チャクリー王の霸業——英國のタイ國工作——チュエーロンコン王の偉業——タイ・佛事變と獨立保障

タイ國近代史——ブラチャーテイボック王の功業——人民黨と立憲革命——急進派の凋落——武斷派の擡頭——十月兵亂の經緯——國王の退位——武斷、文治兩派の抗争——タイ國最初の議會解散——ビブリン内閣の確立——新興タイ國の動向——最近の日タイ交通

附録、タイ國憲法——日タイ歴史年表

東京市麹町區幸町一丁目四番
亞細亞日本社 電話 振替 東京 六四一六番
電話 銀座 二五一番

財團 日本タイ協會々報第二十九號 目次

口繪寫眞

- 一、昭和十七年六月二十七日、外相官邸に於ける東郷外相主催歡送會に出席の日タイ同盟慶祝答禮使節一行
- 一、昭和十七年六月七日、東京赤坂根津美術館に於ける日本タイ協會、華道家元池坊華道會本部共同主催の日タイ親善文化の集ひ

卷頭言

日タイ同盟慶祝答禮使節の使命……………常務理事 川村博……………一

說苑

- タイ國の文學……………駐日タイ國全權大使 デイレック・チャイヤナム……………二
- 日タイ同盟締結事情とその將來(放送講演)……………タイ國駐劄帝國全權大使 坪上貞……………三
- 南詔の文化(三)……………前 嶋信次……………六
- タイ語音聲學ノート(一)……………江尻英太郎……………七
- 日タイ同盟を慶ぶタイ國人消息五篇…………………………三〇

新聞論調

タイ語の簡易化……………バンコック・クロニクル紙六月三日……………三〇

農業貸附.....(二) 巴ンコーク・クロニクル紙六月十九日.....六

資料

アユチャ時代の宗教—ファン・フリートの「暹羅王國誌」による(一)：奥村 鐵 男譯.....四
クラを繞る諸問題—特に昭南港との關聯に於て.....(二) 桃 島 輝 夫.....四

タイの赤十字特志救護團.....(タイ寫眞畫報).....七三

タイ國大藏省の通貨新規定.....巴ンコーク・クロニクル紙六月十七日.....七四

タイ國稅務局の收入増加.....巴ンコーク・クロニクル紙六月三日.....七五

タイ國新電信料及び郵稅.....巴ンコーク・クロニクル紙六月三日.....七六

タイ油類の新定價.....巴ンコーク・クロニクル紙六月十八日.....七六

タイ國關係雜誌記事.....本協會調查部編.....七六

タイの新聞より.....本協會調查部編.....七六

雜報

○タイ國へ答禮使節派遣.....二

○矢田部全權大使親任式.....三

○特派大使一行歡送會.....三

○特派大使一行出發.....三

○特派大使一行バロンコーク入り.....三

○タイ國皇帝御近狀.....三

○日タイ間圓決済協定成る.....五

○辭 令.....六

○タイ國產業商務兩省新設.....六

○タイの航空留學生.....六

○タイ國・日本に切手を注文.....六

○新設商務省に六局.....六

○ワニット・タイ使節團歸國.....六

○タイ國爲替管理斷行.....六

○タイ國中央銀行開業.....六

○タイ國遷都決定.....六

○タイ・佛印新國境劃定成る.....六

○在タイ華僑重慶へ忠言.....六

○タイ國・國民政府を承認.....六

○タイ國各國大公使任命.....三

○情報局第一回補助金下附.....五

○廣田元首相を名譽會員に推舉.....五

○理事會、評議員會開催.....五

○役員の異動.....五

○會員の異動.....五

○會員の消息.....五

○協會總裁及役員並職員.....五

編輯後記.....五

〔目次終〕.....五

三

タイ國・外國語を驅逐.....六

○タイで外人の廿七種職業禁止.....六

○タイ軍モンカーク占領.....六

○タイ國圓貨を法定準備に.....六

○タイ國へ二億圓借款供與.....六

○タイ國專任外相.....六

○タイ革命十周年祝賀會.....六

○タイ派遣交換學生決定.....六

○遣タイ慶祝答禮使節と本協會.....六

○パホン使節禮電並に本會々長・理事長答電.....六

○日タイ親善文化の集ひ.....六

○矢田部理事長のタイ國革命記念日祝賀放送.....六



よ右の一行一節使節客視盟盟同イタ日の席出に會送贈主相外郷東るけ於に邸官相外 日七十二月六年七十和略
三・將少年陸本岡・貞顯席首野水・使大國イタ日駐クーレーイテ・將少年海越岩・使大派特田廣・使大部田矢り
（簡子處）

卷 頭 言

日タイ同盟慶祝答禮使節の使命

常務理事 川 村 博

日タイ同盟慶祝答禮使節として、重臣の一人たる廣田弘毅氏を正使とする有力な使節團の特派せられたことは、帝國のタイに對する至大の友誼を表示するものである。

この使節團に本協會の名譽會員廣田前總理、理事長矢田部大使、常務理事三島子爵の三氏が加はつて、日タイ國交史上劃期的な重要使命遂行の任に當たられたことは、本協會の頗る誇りとするところである。

タイ國立憲革命に際し、王黨乃至保守的勢力を助けた英國は、革新政權の確立を好まなかつた。因て對外關係を憂慮したビヤ・パホン、ピン兩氏は、第二次革命擧事の當夜ひそかに當時公使であつた矢田部氏と會見して日本政府の支持を求めた。矢田部公使は即座に之れを快諾して兩氏を激勵し、三者は赤心を吐露して東亞的東亞建設の理想を語り、且つ提携協力を誓つたといふ。この挿話は同盟成立を機會として、往時を知る人々の記

憶を再び新たにしつゝある。日タイ同盟は實に遠く十年前の其の時に胚胎し、大東亞戰爭を機として實現したものと云ふべきである。

タイ國の求むるものは國家の獨立と民族の發展とにある。新興タイ國の歩みは見るべきもの多かつたとはいへ、獨力よく英の桎梏を脱して、法權、財政および經濟の獨立を全ふせんことは、不可能にあらずとするも前途遠慮であつた。日本と共に戰ふ大東亞戰爭こそは、タイ國一千六百萬國民に與へられた最大の機會でなければならぬ。

ピン首相と少數の具眼者がタイ國の良き友として迎へた日本の眞意は、東亞建設工作の具體的進捗に伴ひ、遠からずタイ國民心にひろく徹底するであらうが、我が使節の往訪は之れに拍車をかけたであらうことを疑はぬ。同時に使節一行は我國官民のタイ國に對して持すべき心構へ等についても、現地最近の實情に即した所信を齎らし、本邦朝野に新らしき示唆を與へらるゝこと多きを信じて疑はぬ。



日七月六年七十和昭
館海英律根坂赤京東
イタ日の使主同共部本會道華坊池元家道華・會協イタ本日るけに館海英律根坂赤京東
(抄夜の真總雜專坊池ひ集の化文書觀)

説

苑



タイ國の文學

駐日タイ國全權大使 デイレーク・チャイヤナーム



本篇は駐日タイ國大使ディレーク・チャイヤナーム閣下が本協會の依頼に應じ、特に執筆寄稿されたもので、原文英文なるを本協會において邦譯した。茲に大使の厚意に對し、謝意を表す。

タイ國の文學史は、これを三期に區分することが出来る。曰くスコーター時代、曰くアナチャー時代、曰くクルンクテーパー時代或ひはバーンコーク時代。

スコーター時代

西曆一二五七年—一三七八年

タイ國の文學史は、西曆一二七七年から一三一七年の間、スコーター王朝のラーム・カムヘーントウ王の治世中に始まると謂つてよい。抑々タイ國の文學は、久しく印度支那半島を風靡した印度文化に、その源流を汲むものである。印度はタイ文化の發達に大きな影響を與へたのみならず、その文學、藝術、および宗教上の遺産をタイ國にのこし、それがやがて發展してタイ國のものとなつた。佛教の渡來はタイ國人に宗教上の新しい理想を與へたばかりでなく、文學においても亦新しい理想を與へた。従つてタイ國の國民文學の初期に於ける作品は宗教文學であつた。

この聖典文學の多くはバーリー語で書かれてゐる。現行のタイ語アルファベットをタイ國民に與へた名譽はラーム・カムヘーントウ王に屬する。王は當時存在したカンボヂャ文字を修補して、適當なタイ文字としたのである。現在タイ國々立王室博物館に有る石刻のラーム・カムヘーントウ文字は初期タイ文字の標本を示すものである。此の石刻文字はその歴史的價値を離れて、文學的見地から見ても興味に富んでゐる。これは現代の文書と非常に違つてゐて、語句章節の區切りを設けずに書き連らね、母音も子音も全部同じ線上に相前後して書き綴られてゐる。譯者註、現代タイ語においては、母音は子音の前後に列らべて一線上に書くものと、子音の上下に書き添へるものとある。然かし其の中に用ゐられてゐる語は、總べて純然たるタイ語であつて、僅少のバーリー語とカンボヂャ語とが混入してゐるに過ぎぬ。辭句は簡潔、短約で表現が直截である。試みに一齣を譯出してみよう。

ラーム・カムヘーング王の在世中、ムアング・スコータイ(スコータイ市)は繁榮した。水に魚あり、田に稻あり、王は民に課せず、民は道路によつて旅をし、家畜を便役して商用を便じ、馬の背に乗つて商賣に赴いた。何人によらず、象を商はんとする者はこれを商ひ、馬の取引をなさんとするものはこれを取引し、金や銀の商ひを希望する者は亦その商ひをした。

タイ文學史の各時代を通じてこれを見るに、タイ國の文人は多く王族か乃至は官廷の役人であつた。タイ國に於ける手寫本で現存する最古のものは、ラーム・カムヘーング王の甥ブラヤー・リタイ王の著作にかゝるトライブンカーターである。これは佛教の宇宙觀についての論文で、當時の時代思潮に基き、天、地、地獄の三界を論じたものである。優れた文體をもつ説教風の著述で、讀む人をして一讀感激せしめずには置かない。古傳説及び教訓から成る倫理文學の著作は、この時代から初まる。

アヌタヤー時代

西曆一三五〇年—一七六七年

當時のタイ國首都アヌタヤーは西曆一七六七年ビルマの侵寇によつて、見る影もなく破壊された。全く完膚なきまでに、目茶苦茶に壊滅し盡された。而かも、それは單なる都市の壊滅に止まらなかつた。古き歴史の跡を探ぬべき唯一の手掛りたる文書記録が、これと共に烏有に歸したのである。木造、石造の家屋は再建出來るとしても、文書記録はそうは行かぬ。この爲めにタイ國文學が取り返し得ぬ損失を受けたことは、眞に痛惜に堪えない。政府の記録やア

ヌタヤー王朝の王紀をはじめ、四世紀に亘つて蓄積せられた宗教および文學上の多數の文書が、この時ビルマ人のために焼かれたのである。従つてアヌタヤー時代に於けるタイ國の文學上の所産が幾か程あつたものか、これを知ることが不可能である。しかしアヌタヤー時代は、大文學を創造するには餘りに戦争が多過ぎたことを記憶すべきである。それにも拘らずタイ國は今日尙タイ文學の珠玉と目される幾多の作品を後世に遺した諸王や諸詩人が既に當時に於て輩出したことを誇り得るのである。私は曩にインド文化がタイ文學に多大の影響を與へたことを述べたが、そのほかにもアヌタヤー時代に於てヨーロッパ人、日本人、ベルンシャ人、カンボヂヤ人、波羅門教徒、支那人などの如き諸國民と接觸した結果、彼等の文化からも影響を受けてゐる。タイ文學は他の世界各國の文學と同じく韻文と散文とに分たれる。そして初期のものは散文であつたが、ブラヤー・リタイ王の治世以降多くの作品が散文と區別されるべき韻文の性質をもつやうになつた。

リットヌアンバイと稱する筆者不明の韻文はトライローカナート王時代(西曆一四四八年—一四八八年)の作と認められてゐる。これはチェーリングマイ侯を打ち破つた勝ち軍について同王を讚美する史詩であつて、タイの韻文中傑作の一つとせられてゐる。トライローカナート王はまた頗る信仰厚き國王であつたので、王は當時の勅選詩人等に命じてマハー・チャート・カム・ルアーシグ(勅撰佛陀の生誕)の起草を助けしめた。その後釋迦生誕の物語を書いた著者は少なく無いが、文學的觀點からすれば此の「勅撰佛陀の生誕」はタイ語で書かれた著作中最も優れたものの一つで、今日も尙タイ國古典文學中の珠玉とせられてゐる。その文學的表現様式は、その執筆者等の藝術上ならびに宗教上の思念を映寫する心理的寫真であるかの如くに彼らの面目を反映せしめてゐる。チュラーロンコーン大學(バーンコーク)前名譽教授故ジョージ・ビー・マッククファーランド博士は、マハー・チャート(佛陀の生誕)の物語を

簡約して次のやうに述べてゐる。

釋尊は化身して現世の諸々の形をとり終つた後に初めて正覺を得た。その化身のうちで最も興味あり且つ尊くもあるのは、彼が最後の正覺に達して、現世の生涯を終へる直前の十回の化身である。これをトツサチャート（釋迦の十回生）と名附ける。この十回の化身の度毎に順次に忍辱、精進、決斷、舍身、智慧、眞正、慈悲、無差別等の諸徳を修得して遂ひにマハー・チャート（佛陀の生誕）と呼ばれる、第十回目の化身に到達するのである。マハー・チャート物語は、ウエットサンドン（布施太子）を主人公とする一つの物語である。彼は、過去に現はれた有徳の化身者達のもつ諸徳目を悉く一身に獲得し、而かも彼自身は慈悲の權化であつた。彼は麗はしき王女マツトシーに迎へられて之れを妃となし、一男一女を得た。その頃都に不思議な靈力をもつ白象が居つて、早魃に雨を降らした。隣國のカリンガ國が早魃に苦しんだとき、カリンガ國王は使者をウエットサンドン王子に送つて、白象を乞ひ求めたところ、王子は快くこれを與へた。王子の慈悲深さは今に始まつたことではなかつたが、この事を聞いた人民達は遂に激怒して、王子の追放を嗾附した。父王は人民の嗾附を無理ならずとして、王子を森に追放した。王子は森にあつて相變らず氣前よく施こしを續け、二人の子供さへも乞はるゝまゝに奴隸となし、妃をも或る老婆羅門の望に任せて之れに與へてしまつた。この老婆羅門は後にインタラーの假身と知れる。そしてインタラーは結局王子に妃を返へす。二人の子供は祖父王によつて奴隸の身分から買戻され、ウエットサンドンも亦父王の請ひによつて追放から歸つて來る。

傳説によればこのマハー・チャートの原話は、釋尊が或る大法座に自ら口述されたもので、その法座には釋尊の父君も出席してゐたと謂はれ、現今佛教徒の集會で毎年讀誦される習はしとなつてゐる。

ソング・タム王（西曆一六〇二年—一六二八年）もまたマハー・チャートの別譯を著はしたことによつて有名である。カーブ・マハー・チャートとして知られてゐるのがそれであるが、これの方が平易で、わかりやすく、今日なほ行はれてゐる。

韻文全盛時代

一名ナーラーイ大王時代

西曆一六五六年—一六八八年

ブラヤー・ナーラーイ王の治世は、恐らくアヌタヤー王朝の最盛期であつた。そしてこの聖代を一貫して美術・文學・および外交の燦爛たる興隆を見た。王は自ら數多くの美しくい詩をものし、又タイ美術、タイ文學の偉大なる後援者であつた。されば人民は平和の諸藝術や商業にいそむことが出來、國家としても異國民に對する超然たる態度を捨て、諸邦の元首と公式國交關係を結び、タイ國は有らゆる點から諸外國の尊敬を受くべき東方の一雄國として知られるに至つた。王の時代にかの有名なフランス王ルイ十四世がタイ宮廷に使節を送り、王はこれに對して答禮使を送つた。王の宮廷には幾多非凡の詩人が雲集し、宮中の女官やその從者さへも、詩の嗜みをもつてゐた。そして宗教から戀愛その他現實生活に至るまであらゆる種類の文學的著作が作り出された。他方醫學その他の科學書にして今尚タイ國民の至寶とする述作の現はれ始めたのもこの時代である。このナーラーイ大王時代に書かれた醫學に關する

一論文が現にバーンコークの国立王室圖書館に珍藏されてゐる。王の代表作はリリット・ブラ・ロウであるが、これは現在でも古今を通じての傑作詩中の一つと認められ、しかも此の種の悲劇物としては、タイ國において書かれた最初のものである。此の詩は、タイ人の天賦の資質たる武勇、謝恩、ならびに慈悲を描寫する物語である。王の治世中にシー・ブラットと謂ふ有名な詩人があつて、第一流の雄篇中に數へられる大冊の詩數卷を著した。彼の作中最も著名なものは韻文で書かれたアニルトの物語である。これはインド文學に現はれる有名な人物アニルトを取扱つた傳奇物語である。

現代タイ國の有名な學者で、且つ著述家であらるゝダムロンク殿下によると、十八世紀の初葉、即ちアナチャー時代の末期に、當時の王の二人の王女がイナオと云ふ一つの物語を二つの異つた辭句をもつて書いた。これはタイ國の韻文中最も重要なものゝ一つと成つてゐるが、題材を往古のジャバに取つた劇詩である。然しこの二篇の劇詩は二人の姉妹が協力して書き上げたものではなく、各自が別々に其の一篇を書いたのである。そして兩篇ともイナオと云ふ同じ題名を附してあるが、一般には其の一つをイナオ・ヤイ（大イナオ）、他の一つをイナオ・レック（小イナオ）と呼んでゐる。兩者を區別するのに大きさを表はす言葉が使用されてゐる理由は明瞭でないが、ダムロンク殿下は、イナオ・レックの翻刻に際し、その序文に於て、ヤイ（大）は年上の王女、レック（小）は年下の王女の作を示すのであらうと言つてゐる。二つのうちイナオ・レックの方が廣く普及してゐて、古典劇には多くこれを用ゐられる。イナオ・レックはその持つ詩的魅力と、韻文をもつて巧みに叙事を試みた其の優れた手法との爲に、タイ文學中の一雄篇と見做されてゐる。この姉妹の兄君たるタムマーティベツト親王も亦ブラ・マライといふ物語を書いた。これは或る信仰厚き名僧が天國と地獄を訪ねる奇談を書いたものである。大型の書冊に書いたもので、地獄

の責苦の有様を畫く圖解が附いてゐる。また各種の式典で一般に用ゐられる宗教上の讀誦文がこの本に書いてある。本書の意圖する教訓は因果應報にある。

クルングテープ時代

一名バーンコーク時代

西曆一七八二年——現代

ラーマ一世王は現王朝の始祖であり、アナチャー滅亡後バーンコークに新都を建設した王であるが、王は偉大な武人であると同時に、偉大な文人であつた。アナチャーの潰滅後イナオのタイ語原本が一部分喪失した。因つて王はその部分を書き直ほし、又全篇に互つて同書に改訂を加へた。これは我がタイ文學に對する同王の偉大な貢獻として著聞するところである。王はまたラーマヤナの原作から翻案して、韻文をもつてラーマキアンを書いた。

ラーマ一世の息ラーマ二世王（西曆一八〇九年—一八二四年）も亦大文學者であつて、多數の演劇を書いた。ラーマキアン（ラーマヤナ）、イナオ、チャイチュエーット、サンタトーンク、クライトーンク、カウイー、マニービチャイ、サンクシップチャイは圓熟したタイ語で書かれて居り、恐らく前記著作中の白眉と思はれる。この書は人をして一讀又再讀、興味津々として卷を措く能はざらしむるものがある。同王の時代にクーン・チャーニング・クーン・ベーンが作られた。これは王自身と一群の勅選詩人達との共同製作に成るもので、タイ演劇中最高の傑作である。その章句は直喻、隱喻、諷刺、轉喻、漸層法、漸降法等あらゆる文學的修飾に満ちてゐる。由來王の著作は多分の人生

ア	アユダヤ	Ayudhya
	アニルット	Anirudh
イ	インタラー	Indra
	イナオ	Inao
	イナオ・ヤイ	Inao Yai
	イナオ・レック	Inao Lek
ウ	ウエットサンドン	Vessantara
	ウアチラーウット王	King Vajiravudh
カ	カンボヂャ	Cambodia
	カーブ・マハー・チャート	Kab Maha Chat
	カリंगा	Kalinga
	カウィー	Gavi
ク	クルングテープ	Krungdhep (Bangkok)
	クライトーング	Kraitong
	クーン・チャーソグ・クーン・ベン	Khun Chang Khun Phaen
サ	サングトーング	Sangthong
	サングシップチャイ	Sangsiphchai
シ	シーブラット	Sri Praj
ス	スコタイ	Sukkhothai
	スントーン・プー	Sunthorn Bhu
	セーバー	Saypah
セ	ソング・タム王	King Song Tham
タ	ダムロンク殿下	H. R. H. Pince Damrong
	タムマーティベツト	Dharmadhibes
チ	チェーングマイ	Chiangmai
	チュラーロンコン大學	Chulalongkara University
	デジョージ・ビー・マツクフアーランド教授	Prof. George B. Mcfarland
	チャイ・チュエツト	Chaichet
ト	トライ・プームカーター	Traiphumkatha
	トッサチャーット	Thotsachat
	トライローカナート王	King Trailoknart
ナ	ナーラーイ大王	King Narayana the Great
	パーリー語	Pali
ハ	ブラヤム・リタイ王	King Phya Li-Thai
	ブラ・マーライ	Phra Malai
	ブラ・ルアング	Phra Ruang
マ	マハー・チャート・カム・ルアング	Maha Chat Kham Luang
	マツトシー	Matsi
	マンニビチャイ	Manipichai
ラ	ラーム・カムヘーング	Ram Khamheng
	ラーマー一世王	King Rama I
	ラーマキヤン	Rama Kien
	ラーマヤーナ	Ramayana
リ	リリットユアンバイ	Lilit Yuen Pái
	リリット・ブラ・ロー	Lilit Phra Law

哲學を包蔵し、その詩はよく人心を感動せしめる力をもつてゐる。

クーン・チャーリング・クーン・ベーンは、セーバー即ち戀愛讃歌である。従つてその以前に書かれた諸作の様に神話や神話的英雄を取扱つたものではなく、當代の實生活を描寫したものである。當時の著作者は孰れも其の時代の生活を有りのまゝに描寫した。このセーバーに於てもタイ國の各般の風俗習慣が美しく描出されてゐる。吾々の崇仰するスントーン・プーはラーマ二世時代の人である。彼は漫遊者として書いた九種の漫遊詩その他多くの美はしい詩を書き又俚諺集を作つた著名の作家である。彼の書いた種類の詩においては、何人も彼の右に出づるものが無い。彼は恐らくタイ文學界に於ける最大の存在であらう。彼は一個の天才であつた。そして茲に記憶すべきことは、スントーン・プーは比較的無教育な人であつたにも拘らず、タイ國の生んだ最大の教育家の一人となつたことである。畢竟「詩人は生まるべくして、作らるべきものでない」。教育は詩人を作り得ないのである。不幸にして彼は極めて悲惨な一生を送り、死に至るまで窮乏の生活を續けた。然るに此の艱難辛苦の中にあつて遂に能く勅選詩人となり得たのである。

ラーマ六世即ちウアチラーウット王（西曆一九一〇年十一月九二六年）も大文學者であつた。王には百種以上の著作がある。王は數多の美くしい劇詩を書いたが、その最も優れた作はプラ・ルアング即ちタイ文學の創始者ラーム・カムヘーング王の一生を叙した劇詩である。王はまた沙翁の戯曲「お氣に召すまゝ」「ヴェニス商人」および「ロメオとジュリエット」をタイ語韻文をもつて逐語的に翻譯した。

法律書では、古くは西曆一三三〇年に至るまでのタイ國々法を原形のまま記録した古書が澤山ある。然るに史書に至つては本稿の初めに述べた如く不幸にして缺如してゐる。

〔譯者註〕本文中の固有名詞については、文中原語引用の煩を避け、左に邦語と對照列記して參考に供した。

日タイ同盟締結事情とその將來【放送講演】

—五月二十三日午後七時三十分A区より—

タイ國駐在帝國全權大使 坪 上 貞 二

攻守同盟は何故に結ばれたか

昨年十二月八日大東亞戰爭勃發と同時に、タイ國は、皇軍の平和進駐に欣然同意し、次で十日、日タイ兩國間に同盟條約に關する基礎的瞭解成立し、正式に二十一日を以て同盟條約に署名調印を了しましたことは、日タイ友好史上は固より、世界歴史に取て劃期的の一大事實でありまして、今回タイ國政府がビヤ・パホン元老を主班とする同盟慶祝使節を日本に特派し、兩國友好關係を一層緊密化するに至りましたことは、誠に御同慶に堪へない處であります。同使節一行が光榮ある任務を終了し、一昨二十一日を以て無事盤谷に歸着せられましたことは、慶賀此の上もない處であります。

日タイ兩國が同盟の誼に依り聖戰完遂に邁進して居りますことは、全くタイ國が日本の眞意、聖戰の眞義を、徹底的に了解致しました結果なのであります。タイ國が十年前に成就致しましたところの所謂タイ人のタイ國と言ふ立憲革命の目標、之を擴大しますれば、亞細亞人の亞細亞建設と言ふ信念と、皇國日本の大生命とが完全に合致した結

果に外ならぬのであります。

同盟締結前に於けるビブーン總理の態度

御承知の通りタイ國は大戦間際まで、中立政策を堅持致して來たのであります。大國の間に介在する國としまして一方に偏しますれば其の國の存亡が危まれるといふ状態にありますので、其の中立政策は全く止むを得なかつたのであります。日タイ兩國の友好關係は、之を歴史に遡れば遠きに及ぶのであります。近頃は滿洲事變に端を發した、日本の國際聯盟脱退の際に於けるタイ國の棄權に始まつたのであります。タイ國に於ては立憲革命が完成した直後でありまして、タイ國が日本の國際聯盟脱退に對し、執るべき態度と云ふものは、矢張中立政策を執るより外なかつたのであります。進んで日本に賛成を表しますれば、英米依存のタイ國の財政經濟は直に破壊するのであります。さればと言つて英側に組しますれば、タイ人のタイ國と言ふことを目指した所の立憲革命の趣旨に對して裏切ることになるのであります。そこでタイ國としては、棄權するより外に執るべき途がなかつたのであります。

昨年六月タイ佛印國境紛争調停が日本の手に依りて出來たのであります。其の時を以て日タイ親善關係は高調に達したのであります。然し其後日蘭會商の不調でありますとか、日米會談の停頓と言ふ様なことと相待つて、英米側はシンガポールを中心としA.B.C.D包圍陣を益々強化し、一方經濟斷交を以て日本を壓迫しようとするのであります。此の間英米の策動はタイ側に影響する處頗る大であつたのであります。其の當時タイ國の向背は列國注視の焦點となつて居つたのであります。然し此間に在りてビブーン總理は立憲革命當時の信念に基いて、亞細亞人の亞細亞建設の爲には、日本と手を握らなければならないといふことを確信して居つたと言ふことは、幾多の事例が之を

證明して居るのであります。丁度日本で臨時議會が開かれました昨年十一月半でありました。米國は理不盡にも日本の公正なる立場を理解せんとせず、日米會談は正に決裂に近付きつゝあると言ふ時期であつたのであります。私はビブーン總理に關係し、「亞細亞の運命を決する時機は刻々と迫りつゝある。國際的暴風は何時、何處に向つて吹いて來るかも知れぬ。勿論タイ國は其の對象ではないのであるけれども、タイ國は地理的に必ず國際的暴風の影響を受けざるを得ない立場にある。タイ國としては、ヨーロッパの中立國の運命を繰返さない様に、今日に於て覺悟を決せらるることが最も必要である」と言ふことを、力説致しました時に、ビブーン總理は「最後の場合は必ず日本と手を握る。亞細亞の運命の開拓は、日本と手を握らなければ出來ないと言ふことは自分の信念である。同色の亞細亞人種の間で兄弟艦に閲ぐと言ふ事は、斷じて許されない。蔣介石の態度は間違つてゐる。」といふ事を明言致してゐるのであります。

平和進駐案とビブーン總理の動靜

國際情勢は刻々と急迫の度を加へ、何時、如何なる事態が起るかも知れないと言ふ状態であつたのであります。十二月七日を以て交渉開始日とすると言ふ電報を受取つたのは、七日の午前十時半でありました。私は直にビブーン總理の所在を確かめたのであります。不幸にして總理は盤谷に不在であつたのであります。ビブーン總理は、七日の前日即ち六日の早朝から佛印國境にあるビブーン・ソックラムといふ、總理と同名の縣を中心として、轉々として現地視察中であつたのであります。其の所在を確かめましたのは、夕方の五時頃でありました。彼之致して居ります内に、七日の午後十時を以て交渉開始の時刻と定める、而して皇軍の進駐は二時間後の、八日の午前零時を以て之を

開始すると言ふ指示を受取つたのであります。其處でビブーン總理の歸來を待つ譯には参りませんので、臨機の措置として外務大臣と會見し、交渉に道入つたのであります。外務大臣は直に臨時閣議を開き、審議に審議を重ねました。がビブーン總理が歸るまでは、何等の措置も執ることは出來なかつたのであります。是はビブーン總理が文武の全權を掌握して居たので、己むを得なかつたのであります。八日前零時に、總理は飛行機で歸る豫定になつて居りましたが、夜間のこととて自動車で歸ることになつたので、八日の朝七時頃でなければ盤谷に着かないと言ふのであります。私は八日の午前四時半まで總理官邸に頑張つて居たのであります。一旦引取り、午前七時になつて總理が歸來したと言ふ報告がありましたので、直に會見致しました處、總理は日タイ兩軍衝突回避の命令は、歸來即刻發して置いたと言ふことでありましたので、直に本交渉に道入りました。總理は閣議の別室に於て、旅裝の儘會見致したのであります。今日までの中立政策から、皇軍の進駐を見るに至つた急轉回の際會して居たのであります。

同盟締結から宣戰布告に至る事情

ビブーン總理は直に閣議に諮つたのであります。當時の情勢としては、平和進駐案に同意するより外なかつたのであります。依て平和進駐案に署名を致したのであります。一刻も早く之を同盟に引直す必要がありましたので、夫々手段を講じて居つたのであります。十日の夕方七時に會ひたいと言ふので、會見致しますと、總理はタイ國としては、對英戰爭を決行する以外に途がないと思ふが何うであらうかと言ふことであつたのであります。私は其の通りである、然し、日本との關係を如何にするかと言ふことを、具體的に實證しなければならぬと申しますと、日本としては何をタイ國に要望せられるかと言ふのであります。私は直に攻守同盟に道入ることだと申しました處、總理は

即刻之に應諾を與へました。署名は其の翌朝を期して行ひましたが、署名に先ち、十日の晚九時ビーン總理はラジオを通じて、日タイ兩國間に攻守同盟に關する基礎的の了解が成立したと言ふことを、全國民に向つて放送したのであります。了解は成立しましたが、之を正式條約に引直す必要がありましたので、兩國政府間に協議を進めました結果、十二月二十一日を以ちまして、タイ國として、戴冠式等が行はれます處の、王宮内に於けるエメラルド佛陀を奉安してあります殿堂に於て、最も嚴肅な儀式を以てビーン總理との間に、正式に同盟條約に署名調印を了したのであります。盤谷は開戦以來二回の空襲を受けたのであります。第一回目は一月の八日に受けましたが、其の時は大したことはなく、第二回目は一月二十四日の晚遅くから二十五日の未明に掛けて相當ひどい空襲を受けたのであります。其の時國民議會事堂の屋根は打抜かれ、二名の即死者を出し、又、學校、病院、民家等にも相當被害がありました。此の二回目の空襲がありましたので、國民の士氣を鼓舞するのは此の時だと言ふので、二十五日の正午を期し、米英に對して宣戰布告を行つたのであります。

ビーン内閣は這般慶祝使節として來朝せられましたビヤ・パホン内閣の後を受けて、昭和十三年暮に成立したものであります。戦時内閣として立つには、國民の信任を新にしなければいけないと言ふ見地から、三月六日總辭職を決定したのであります。然し組閣の本命は更にビーン總理に降りまして、新内閣を組織したのであります。其の内閣組織と同時に、國民議會に信任を問うて全會一致の信任を得、戦時内閣として立つ様になつたのであります。爾來日タイ兩國は軍事的に、經濟的に、將又政治的に、相互に協力の責を擧げて參つて居るのであります。

盟邦援助に對する日本國民の覺悟

タイ國は毎年約一億圓位の輸出超過國であります。タイ國の經濟は一寸も發展しない。外債の利拂、英米の投資に對する利潤の支拂及び華僑の本國送金等に依り、貿易外に於て約一億圓の海外流出があつたのであります。然し戰爭開始に依り在タイの英米資産は、敵産として之を沒收管理し、タイ自身が經營すると言ふことになつたのであります。日本としては飽迄之に協力を與へ、タイ國の經濟を發達せしむるの必要があるのであります。

我國としましては今後飽迄タイ國の獨立を強化し、南方に於ける共榮圏の一翼として、其の任務を全うせしめなければならぬのであります。タイ國が日本の協力を依つて立派な發展を遂げますならば、是は直に實物教訓として、周圍の共榮圏内の民族に及ぶのであります。而してタイ國獨立の強化はビーン政權を完全に支持援助する外に途はないのであります。日タイ兩國は眞に兄弟の關係に立つて居るのであります。兄弟國の向上發展の爲に飽迄協力すると言ふことは、日本の責務であります。斯くて南方に於ける大東亞共榮圏の礎石が強力に築き上げらるのであります。

タイの新聞より

バンファトング鐵道買収計畫

トンブー市はチャオプラヤウオラボンダからバンファトング鐵道を買ふといふ事が報せられてゐる。同報告によれば、鐵道線の持主は全祖立、設備に對して三十萬バートを要求してゐるがタイラット紙によれば、市當局は値段が高價過ぎるといふ事を報じてゐる。

(バンコンーク・クロニクル、六月十五日)

バンコンーク・タイムス改正料金

本年一月一日より實施された改正雜約料金は左の如し、

一ヶ月	六ヶ月	一年
總谷市内 二、五〇チタル	一〇、〇〇チタル	一八、〇〇チタル
タイ國內 四、〇〇チタル	三〇、〇〇チタル	四〇、〇〇チタル
海外 五、〇〇チタル	三六、〇〇チタル	五〇、〇〇チタル



南詔の文化(三)

一八

前嶋信次

鄭回德化碑々文

前號に於いて南詔鄭回德化碑は如何なる事情の下に、その國都太和城に建てられたかを見た。次にその碑文を譯出することにする。

「恭しく聞くに、清なるものが上つて天となり、濁つたものが下つて地となつて、兩者が別れたとき、陰と陽の二氣が動かされて、萬物を生じた。河川と山嶽とがそれぞれその位置を定められると、次には元首をたて、八方を定めしめたが、正道が行はれるときは、國の内外とも安寧に、政治に無理があれば、必ず文化も變調を來すものである。我等の贊普鍾(チベット語、王弟の義)たる蒙國(モン國)の大詔(大チャオ、即大王)はその性格、所行ともに道に合し、叡智をもつてことがまだ萌さぬうちに早くも察知し、時勢に従つて政策を立て、最も適宜な所によつて民を撫してゐる。退つて爲さざる時も、道徳にそむかず、進んで行ふときも、やましい所業は少しもないのである。

王の姓は蒙(モン)で、名は閣羅鳳と云ひ、唐朝から雲南王・越國公・開府儀同三司に進められた皮羅閣の長子に

あたる。靈氣に應じ、秀麗を採り、(應靈擢秀)、規範に従つて、その生涯を高くし(含章挺生)、その風貌も生れながらにして高貴であつた。(日角標奇・龍文表貴)

始め、まだ東宮にありしとき、すでにその行動は三善(君臣・父子・長幼の序を守ることを高くし、その位は重難(日と月)に等しかつた。聖人の書でなければ讀まず、人を慈むの術を學んだ。軍を指揮すれば、成績すこぶる擧つて聞え高く、國政に參與すると、常に家の譽を著すのであつた。唐朝の政府は、これに右領軍衛大將軍兼陽瓜州刺史の職を授けた。先詔(先代の王の義、即ち皮羅閣)が唐の大使(御史)嚴正誨と謀つて、國境方面の惡者を鎮定しやうとしたときは、先王は親しく軍を率ゐて石橋城を攻めた。又、詔(現王閣羅鳳の義)と嚴正誨を派遣して石和子(浪穹の南西にある。西曆七三八年南詔は石和子と石和城に施浪詔の王を攻め破つた。)を攻めしめ、かくの如くして父子軍を分けて二人とも凶醜を滅ぼした。唐朝は閣羅鳳に左領軍衛大將軍の位を授けた。

いくばくもなく、唐の使節王承訓と共に劍川を破つた。(麗江の南西にあり、浪穹詔の王鐸羅望がここに亡命した)忠績は重なり高く上り、その賞はひいて子孫にまで及ぶであらう。更に左金吾衛大將軍に任ぜられたが、これは官位延もよく認めて兵權を委任され、ついで特進都知兵馬大將軍を命じた。かくて二河が既に定められ、五詔(五王國)が已に平定され、南國(南詔)は干戈を收めたので、北朝(唐朝)はそれぞれ行政區劃を立て、統治にあつた。

しかるに越析詔の余黨なる于贈なるもの(越析詔の最後の王の甥にあたる)が鐸稍をたのんで(鐸稍は又鐸稍とも書き、南詔語である。唐書によると、このものは、形は刃のこぼれた劍の如く、則面に孔がいくつもあり、麗水、即ち揚子江の上流の金沙江から出る。夷人が之を金で飾り、刀として撃てば、いかなる物をも貫く。夷人はこれを重寶

として、毎月、生血を献げて祭るを常とするとしてある。瀘江を渡り、敵徒はこれを渠帥として、我が(南詔國の)邊境を擾がし初めた。(瀘水は今の安寧河)そこで書を飛ばし、諸將を遣はすと、たちまちに賊徒は撃退された。詔(王)は弱冠(二十歳)にして早くも英断を自負し、かかる殘醜が大國の軍に敢て逆ひ來るのを恨みとし、固く自ら出征せんことを願ひ出た。その志は掃平にあつたのである。遂に于贈の頭をさらしものとし、その伏藏の巢穴をくつがへしかの利劍鋒稍や寶物は悉く鹵獲してしまつた。かくして君父の憂を解き、國境の患を静めたので、使者は唐の朝廷に奏聞し、唐朝も亦上柱國の榮位を以て酬ひた。

唐の玄宗の天寶七載(西七四八年)に先王(皮羅閣)は世を去られた。玄宗は、生前の功績を思ひ、その子孝心を譽め、往きし人を悼み、殘つた者を哀れんで、使節黎敬義を遣はし、辭令を持たしめて、(その子閣羅鳳をして)雲南王をつがしめた。閣羅鳳の長男鳳迦異は時に年十歳であつたが、天寶年間(七四二―七五五)に入つてから長安の都に來り、鴻臚少卿を授けられてゐたが、(今や父が雲南王に上つたので)辭令を以つて、その前官を襲ひ、又上卿を授けられ、兼ねて陽瓜州刺史、都知兵馬大將に任ぜられた。かくの如く朝廷の殊遇を受けたので閣羅鳳の方でも心に忠誠をつくさん事を期し、子弟は常に唐の朝廷に來たので、史官はその記録を絶やすことがなく、また貢物も一月と遅れたことはなかつた。これこそ君臣徳を一にすれば、内外に欺き無しと云ふにあたるものである。

どうして、かかる時に奸佞な人物が出て、秩序を亂し、惡徒を手なづけて變亂を起させるなどと思ひ及ぶであらう。初め唐の節度使章仇兼瓊は成敗を考へず、輕卒に最非を奏上したので、政府は越嵩の都督竹靈情を遣はし東蠻(一名烏蠻、今のロロ族)の地に府を新設し、安南に至る路を開かした。(これは今の昆明から通海を経て河内平原に出る通路である。)かかる大工事のため賦課は重く、勞役は繁くなり、政治は苛酷で人民は疲弊する一方であつた。そこ

でロロ族の酋長達、即ち南寧州(雲南省曲靖府)の都督爨歸王や昆州(昆明の西方にあり)の刺史爨日進、梨州(雲南省臨安府にあり)の刺史爨曇、求州の爨守懿、螺山の大鬼主(鬼主とは雲南の蠻族が鬼を信仰し、その祭りを主宰するものを鬼主と云ふと唐書にあるが、彼等は政治的勢力をもつてゐたものと思はれる。)たる爨彦昌、南寧州の大鬼主爨崇道等は遂に叛いて、竹靈情を襲ひ殺し、更に安寧城を破つた。そこで唐の皇帝は正使孫希莊、御史韓洽、都督李宓等を派遣し、先詔(先王)に叛徒を招討することを委ねさせた。諸の蠻族は、その威を畏れ、徳を懐しんだので、ここに再び安寧城を置き(安南との交通が確保された。)しかるに、李宓は國家の大計を忘れて、前の章仇兼瓊の失策を繰返へし、官等の昇進、一身の榮達のみ求めて、(ロロ族に對する)政策を誤つたため、遂にロロ族の間に争が起り、崇道は一族の歸王を殺すに至つた。

南詔國でも之について對策を協議し、諸説紛紜として決しなかつたが、王の意志は亂の萌さんとする所を抑へ、先代からの功績を續げんことにあつたので、大軍將(南詔では將軍を常に軍將と云つた。)段忠國等に命じ、唐の使節黎敬義、都督李宓等と合力して、再び安寧に赴いて、ロロ諸部を和せしめることにした。

しかるに李宓は表には和平を計るやうに偽りながら、裏では反間の策を行ひ、更に崇道をして日進を殺さしめたので、東蠻の諸酋長は皆驚恐して云ふには「歸王は崇道の叔父であり、日進はその弟である。しかるにかの讒構を信じて至親を殺戮するに至つては、骨肉相屠るもので天地の所けざる所である」と。そして各々兵を起して我方(南詔)へも同盟を申し込んで來た。李宓と云ふ人物は外形は中正で、佯つて我が郡の兵力をかりてゐるが如き態度をとりながら、實際の心は奸欺で、みだりに我國(南詔)が唐に背いたと報告した。(これは南詔側の辯明で、責任をすべて李宓等に歸せんとしてゐる。李宓等の立場から見ると、南詔が、ロロ族を使喚して、雲南省東部に勢力を延し、そのた

めに、唐の安南方面への聯絡路は遮断される危険に迫つたのである。幸にして節度使郭虛巳の好意により、我國はその無實の罪であることを上表したので、李宓は間もなく貶流され、崇道は滅亡してしまつた。これは、ロロ族の間に二派があつて、その一派、崇道を中心とするものは李宓等に頼り、その反對派は南詔をたのんで相争ひ、後者の勝利に終つた事實を意味するであらう。

又、越嵩(四川省の南部)の都督であつた張虔陀なるものは、その昔雲南の別駕(刺史の次位の官)を奉職してゐた事があるが、雲南の事情に前から通じてゐると云ふことを以つて朝廷に奏請して雲南の都督とならんとし、却つて政府をあざむき、紛亂を起すもを作つたのである。

吐蕃(チベット)。これはチベット語の *stod bod* 即ち上ボツドを意味し、その中部と西部を指す。これに對し東部チベットは下ボツト(スマン・ボツド)と呼ばれる。アラビヤの地理學者イスタフリーはストツド・ボツドを *Tobat* と寫した。チベットと云ふ名も亦これと同系統であるとされてゐる。—W. W. Rockhill, *Notes on the ethnology of Tibet*. P. 69—670) は昔から支那の敵國であるのに彼張虔陀は之と結んで我が南詔を滅ぼさんとかかつた。これは我等の遺憾とする第一のことである。(南詔)誠節王の庶弟は、南詔國に對して不忠不孝であつたから、長沙に貶せられてゐたのを、張虔陀は唐の朝廷に奏して歸國せしめ、これをそそのかして反間を行はしめんとした。これは我が遺憾とする第二事である。ロロ族の崇道は盟約をさげすみ、逆を構へ、罪は正に誅に價する人物であるのに張虔陀は却つて之を拾ひ上げて幕下に置き我等に仇をなましめんとしてゐる。これは遺憾の第三事である。我等と關係悪き者どもには、すべて榮官を授けながら、我等と好き者は皆抑へ屈せしめ、ひたすらに我國をつき落さんとしてゐる。これは遺憾の第四である。城を築き、武器をたくはへ、兵を練つて密に我を襲はんとしてゐる。これは遺憾の第

五である。掟を重くし、理由もないのに税や軍糧を倍額にして上納せしめ、徵求に度が無い。かくして我國を疲弊せしめんとする。これは遺憾の第六である。

右の如き事情であるから、その趣を急いで使を派して上來させ、屢々、我々の苦しみを申上げさせた所、唐の天子も意を留められ、使節賈奇俊をして詳しく調査させることとされた。所がこの人物は無能官吏の一人で、政治の手腕なく、賄賂を以つて動かされるものであつたから、一にも二にも張虔陀を信じ込んで、ぐるになつて天子の耳目をふさぎ、我等が將に叛せんとしてゐると悪しざまに奏上した。

王はそこで天を仰いで嘆くには「あゝ、自分は何もしないのだ。天よ、御照覽下さいませ。天子は九重の天にあつて咫尺の間に拜することは難くとも、萬里の外にある忠臣がどうして邪惡なもの害を受けねばならぬのですか。とそこで軍將楊羅頭等を差はして、表に連ねて申し開きをさせた。これこそ、所謂「天高く、聽遠くして、蠅のあとが玉の瑕なるが如く見え、赤心を吐露しても、了解して貰へない」と云ふ場合ではないか。

國內の主腦部は皆云ふことに「主辱しめらるれば臣死すと申しますが、我等は正に之に當ります。進んで心を合せ力を共にし、命をすてゝ、人たるの道を全くしませう。どうして危難を知りながら防ぐこともせず、坐して滅亡を待つてゐることが出来ませうか。」と。ここに於いて王は大軍將王毗雙、羅時〇、牟直等をして兵を揚げ檄を送らしめて罪を府城に問はしめることになつた。

秋から冬の終りまで、わざと事を延引させて、ひたすら王の運命の如何になるか、無實の罪がすゝがれるかと待つてゐた。しかるに豈圖らんや節度使鮮于仲通はすでに大軍を率ゐて南谿路をとつて(四川省敘州より雲南に入る、通路)攻め下り、大將軍李暉は會同から進み(四川省建昌より雲南に入る道)、安南都督王知進は步頭路(トンキンから紅河

を派つて雲南に入る道から攻め入つて来た。これ等諸方面の軍が相合せんとするのであるから、我方でも手をつかねてゐることは出来ない。即ち、號令を發し、將卒をいましめ、(機先を制して、大軍の來らぬ前に、張虔陀の唐軍を)四面から攻圍し、三軍ひとしく奮ひ立ち、祖先の神靈は冥界より援助し、神の炬火は軍の威力を助け、天人心を協せ、軍兵も民衆も互に力を併せた。張虔陀は遂に毒(酖)を飲んで自決し、その下の者達は潰走した。

(南詔)王は悪いのは張虔陀に全責があるので、他の衆人に罪はないとし、城を擧げて移置し、猶、後の爲を圖つて安寧城に行き、再び哀願を繰返したが、城主李克昭は物事の解らぬ人物で、折角の請願を受けつけない。そこで(南詔方は)大軍將李克鐸を遣はして師を率ゐて之を伐たしめた。もともと我は正しく、彼は曲であるから、城は破れて、その將は逃亡してしまつた。

そこへ、早くも鮮于仲通の大軍が來つて、すでに曲靖地方に入つた。我方では、更にまた首領楊子芬と雲南錄事參軍の姜如之を遣はし、申し開きをして云ふには

「かつて、張卿(張虔陀)が讒言したため、遂に蕃と漢と互に惡感を抱くやうになりましたが、贊普(Dzampo、吐蕃の王號)はロロ族や、浪穹詔方面をねらつてゐます。或はその大軍を以つて威嚇し、或は利を以つて誘惑せんとしてゐるのです。鶴蚌が互に争ひ合つてゐると、漁父に二つともしてやられるでせう。存に居て亡を見、得に在つて失を思ふことが必要ですから伏して乞ふ次第ですが、どうか二城をまた置き、國勢を立て直すことを御許し下さいませ。(唐書によると、南詔は此の際姚州に築城することを希望して來た。)

しかるに鮮于仲通は我國を味方とすることを拒絶し、江口(メコン河の一支流、大理の西方を流れる様備江上の一地點)方面に攻め寄せて來た。我が方は尙、赤心を示して陳情すること再三に及んだが、仲通はその意を受けず、親

をすて、兵をたのんで、殘忍を樂しみ、口を開けば「皆殺しにせよ」と叫びたてた。我方の使者は皆そしられ、叱られた。即ち、先づ將軍王天運をして精銳部隊を以つて、點蒼山(大理の西方五支那の所にある)の西に廻らしめ、腹背から我を挾撃せんとする作戰に出た。

そこで我方も犠牲を供へ、祭壇を設け、叩首流血して云ふには「古より今に至るまで、我國は漢の爲には、その領土を侵したこともなく、叛いたこともない臣屬の國であつた。今節度使がよじみに背き、功を貪り、君主を無視した勝手な討伐を我に加へんとしてゐる。敢て昭に皇天后土に告げ奉る。」と。史祝(祭官)がかく詞を述べ終ると、東北に向つて稽首し、國を擧げて痛嘆した。山川も亦黯然として至誠は神を感じしめ、風雨がどつと吹き降つた。

そこで(王)は宣言して云ふには

「彼が若し我を納れるならば、猶わが君として尊戴する。今や我を納れない上はわが讐である。果斷は軍の機で、遲疑してゐると事を破る。」と。そこで兵をまねいて、その全力を盡して、持場につけと云ひ、左右をかへり見て云ふには、

「それ至忠たらんとせば主が無ければならぬ。至孝たらんとせば家がなければならぬ。」と。そして首領の揚利等を浪穹に派遣し、吐蕃の駐在官論若贊に會見せしめた。この人は時局の變化を見てとり、事情を察して、軍を別けて救援に來てくれた。(註、南詔が政策を一變してチベットと結ぶに至つた事情を釋明してゐる。)

時に中丞(鮮于仲通)の大軍は江口に至つて陣を張つた。(南詔)王は地勢を察し、前後を見合はせ、兵をはなつて親しく戦ひにのぞみ、大にかの軍を打破つた。(この戦勝は天寶十載(西曆七五一年)姚州の北東の瀟南で得たものであつた。)

そこで長男の鳳迦異、大將軍段全葛等に命じ邱遷和と所ふ云で、山後から来た(敵の)援軍王天運の軍を拒がしめ、之を討ちとつて、首を軍門にかけた。中丞(鮮于仲通)は軍をすて、夜に乗じて逃れた。將校達は之を追跡しやうとしたが、王は詔して、これをとどめ「君子はあまり多く人の上に登ることをぞまない。いはんやどうして唐の天子を凌ぐことを欲しやうか。」と。そして、よく相談した後「小にしてよく大に勝つ、これは禍のもとである。仁に親しみ、鄰に善くするは國の寶である。」と云つて、遂に、その子鐸傳舊と、大酋望の望趙佺鄧、楊傳磨伴(南詔人の名前)、後の方は後文にも出てくる)及び子弟六十人を遣はし、重帛珍寶等の物を西朝(吐蕃の王廷)に持たしてやり、挨拶を述べさせた。贊普(吐蕃の王號)は仁にして明察で、重く我が勳功に酬むる所があり、宰相倚祥葉業に命じ金冠、錦袍、金寶帶、金帳、紅傘鞍、銀獸及び器皿、貝、眞珠、絨氈、衣服、駱駝、馬、牛、鞍等をもたらさしめ我國をその兄弟の國としたのである。(南詔王はチベット王の弟、即ち贊普鍾(ツァン・ポ・チュン)となつた。)

(未完)

タイ語音聲學ノ一ト (一)

江尻英太郎

一、子音(初子音)の部

タイ語は三〇字の子音と二大字の母音との音聲が結合して音節を形成し、又其音節が更に結合し語詞を作り、聲調の調節に依つて構成される。

子音三〇字は聴覺に依り識別される。音素は二十一種である。(別圖参照)

タイ語の子音は其調音法に従つて、閉塞音、摩擦音、鼻音、流動音の四種に分類される。

a、閉塞音

閉塞音は一瞬間、呼氣の通路を調音器と舌、又は調音器の間にて閉塞し、呼氣壓によつて急にその閉塞を破る

時、噪音が生ずる音である。タイ語に於ける此種の音は k, k', g, d, t, b, p, p' の九種である。

イ、k, k', g

k, k', g は喉音と稱し喉の調音部位に於て調節されるもので、呼氣の通路が軟口蓋の位置にて閉鎖される。即ち舌根を軟口蓋に近づけて調音される故に、軟口蓋分節音である。日本語の場合とほとんど同じで舌が平になつてゐる舌面と口蓋との接觸面は比較的に廣くなつてゐる。k, k' はいづれも無聲で聲帯の振動を伴はない音であり、k は無聲で平常に呼氣を放出するのであり、k' は有氣で呼氣を烈しく放出するのである。g は有聲で聲帯の振動が伴はれる。

h, t, t', d,

t, t', d は、後歯音と稱し、後歯音部位に於て調節されるもので、呼氣の通路が後歯の位置にて閉鎖される。これを調音するには舌をすつと前に出す。タイ語の場合はイギリス語と同様に齒槽音で舌尖を上歯の齒齦に付ける。t'のみは日本語の場合と同様に、フランス語とイギリス語の中間的な音で、舌尖を上歯の齒と齒齦の間につけると同時に、ぐつと平くした舌面の一部を以て呼氣の通路を閉ぢる。

t', t はいづれも無聲で、聲帯の振動を伴はない音である。t は無氣、t' は有氣音である。

d は有聲で聲帯の振動が伴はれる無氣音である。

h, b, p, p'

b, p, p' は唇音であり、兩唇の間にて呼氣の通路が閉鎖される。

b は有聲音で聲帯の振動を伴ひ、p, p' はいづれも無聲音で p は無氣 p' は有氣音である。

b, 摩擦音

摩擦音は呼氣の通路を調音器と舌又は調音器の間にて狭めて摩擦の噪音を起させるにより生ずる音にて、v, f, s, s', c, h, y の七種である。

イ, v, f

v, f は唇齒音で、下唇を上歯に接近せしめて呼氣の通路を狭めるのである。フランス語に於ける v, f の發音と同様の音である。

h, s

v は有聲音にて f は無聲音でいづれも無氣音である。

s は齒音で又吹奏音とも稱される。上歯と下歯との狭窄によつて生ずる。下顎を前方へ出し、上歯と下歯とを揃へる。舌端は下り、舌の兩縁に極く軽く大齒に觸れ、舌面は齒槽突起の部分に於て硬口蓋に向つて高まる。s は摩擦の激しい無聲音である。

h, s', c

s', c は軟喉音とも云ひ硬口蓋音である。舌面と硬口

蓋音との狭窄によつて生ずる。下顎を前に出して、但し齒を喰ひしげぬ程度にて上歯と下歯とを揃へる。

タイ語に於ては佛語と異り、舌面は口蓋の中央部附近に上る。舌の兩縁は白齒及びその齒槽に接觸し、舌端に前上歯の齒齦と齒との間に接觸する。

s', c はいづれも無聲音で、s は無氣音 c は有氣音である。

h, h

h は喉頭音である。聲帯が振動を起すに至らざる程度に聲門が開かれて、その間を強い氣流が通る時聽かれる音である。

h は無聲有氣音である。

ホ, y

y は軟口蓋音で軟口蓋に舌を近づけ、呼氣を押し出す事により生ずる。即ち後部舌面を軟口蓋に接觸せしめ、舌の兩縁は上の白齒に接近し、舌端は下げ下前歯に接觸せしめるのである。

y は有聲無氣音である。

c, 鼻音

これは懸垂を下げて口腔への通路を塞ぎ、呼氣を鼻腔から出して調音される音である。タイ語にては m, n, ng 音がこれに屬する。

イ, m

前記閉塞音 b と同じく、兩唇を閉塞して調音される。

ただ呼氣が閉塞を破り口腔外に放出する前に、充分に鼻腔へ通し共鳴を與へてから兩唇を開くのである。

m は無聲無氣音である。

h, n

前記閉塞音 d と同じく、上歯と舌端を閉塞して調音される。

n は無聲無氣音である。

h, ng

前記閉塞音 m と同じ發音なるも、鼻腔の共鳴が伴はれるのである。タイ語では g 及び ng を表はす文字は一つで

音	喉音 (喉頭音)				後歯音				唇音				
	有聲		無聲		有聲		無聲		有聲		無聲		
	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	
閉鎖音	高												
	中				k		d		t				
	低												
摩擦音	高												
	中												
	低												
白昇音	高												
	中												
	低												
流動音	高												
	中												
	低												

本印は J に頭音 M と換合 M E の 2 つ。
子音中 M は喉音即成音 T の 2 つは M にはない。(M の 2 つは J)

r は振動音で、舌端が口蓋に向つて高まり、激しく振動して呼氣は舌の兩縁より流れ出る。l の場合と殆んど同じであるが、r の場合は振動即ち打撃が伴はれる。故に放出される呼氣も振動を伴はれ放出されるのである。

r は有聲無氣音である。

e、一般的注意

i、閉塞音に關する一般的注意

タイ語の短い閉塞音は、一定の點に於ける呼氣の閉塞が完全に行はれる。又呼

音	硬口蓋音				軟口蓋音				側舌音				
	有聲		無聲		有聲		無聲		有聲		無聲		
	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	
閉鎖音	高												
	中												
	低												
摩擦音	高												
	中												
	低												
白昇音	高												
	中												
	低												
流動音	高												
	中												
	低												

流音 (l)

三〇

ある。前に頭音が附いた場合に閉塞音の音が出て、しからざる場合には鼻音となる。

ng は無聲無氣音である。

d、流動音

これは發音器官の一部が狭窄され摩擦を惹き起すに至らずして、恰も流れて出るが如く呼氣が放出される音である。タイ語にては r、l、音がこれに屬する。

i、l

l は側音で、舌端を上齒又は齒槽突起につけ、呼氣は舌の兩側から流れ出る。l は有聲無氣音である。

氣を通過させるためこれが急激に行はれる。

長い閉塞音の場合には、その閉鎖が遙かに著しくなつてゐる。

ロ、鼻音と閉塞音との關係

タイ語の通鼻子音を調音する際には、呼氣の閉塞が不完全で、鼻から呼氣が通過する力も多少弱い。且つ呼氣が鼻孔から出る際に生じる摩擦も極めて微である。

如何なる言語に於ても、閉塞音と鼻音の調音法は非常によく似てゐる。殊に閉塞が不完全で摩擦も極少であるから、兩音間の境界線が判然としてゐないのである。b、d、gを少しく鼻をつまらせて發音すると、ほとんどm、n、ngの音が出る。

ハ、有氣と無氣音

タイ語に於ける有氣無氣音の區別は實に明確であり、有氣無氣の調音の確否により成音される語の意味が全然異なるのである。

一例を述べると、タイ國の名稱は「*Tai*」で有氣音で、

死ぬ事無氣音で「*Tai*」と云ふてゐる。外國人(印度ヨーロッパ語系、日本語系)は有氣無氣の區別不明の爲め「*Tai*」と發音する時「*Tai*」になり、即ち自由の民族が死んだ民族となり、少からず不愉快な感を與へ失敗する事がある。

有氣無氣の音が明確なるや否やを識るには、發音する時、口の前に火のついた燐寸又は蠟燭を置くと、無氣音の場合は平常に燃えてゐて焰も殆んど揺れないが、有氣音の場合は焰を消してしまふ。即ち有氣音には多量の呼氣が排出されるからである。

有氣音の根源は梵語である。印度ヨーロッパ語も梵語と同じ語族類系である故多少の有氣音を含むも、西に行くに従ひ有氣音と無氣音の區別が明確ではない。ドイツ語に於ける有氣音は焰を消すも、佛語、英語に於ては、揺ぐ程度で消すには至らない。亞細亞に於ては梵語直系の言語並に佛敎の傳來による影響を受け有氣音を含む。タイ語に於てはそれが他の言語の同化によるものたる事

が明確に解る。タイ語本來は全部無氣音であつたのであるが、後他國の文化の影響により有氣化されたものである。例へばタイ族が彼等の種族を呼ぶタイ「*Tai*」は古音「*dat*」であつたが、順次「*dat*」無氣無聲音となつた。現在北方タイ族、タイ國內北部ラオ種族の一部も無氣にて發音されてゐる。南部タイ族(タイ國、安南)は早くより佛敎の影響を受け、敎典に記されたる梵語も又少なからず佛敎が普及された國の言語を同化せしめた。其結果として南方タイ族である現今タイ國では有氣音「*Tai*」となつたのである。この變遷過程は後節に於て詳述する。

二、子音の高低

前述したのは音調を無視したのであるが、タイ語は聲調語である故、音調は成音上重要な要素である。聲調に付いては別項に於て詳述致したいと思ふ。子音も聲調語であるから子音それ自體にも高低の音調がある。

即ちk, c, s, t, p, f, hには、高い音と低い音とがある。

ホ、vとy

vとyは子音ではなく、半母音であると云ふ方が適確である。正確に云へば13子音23半母音である。

例へば「*寺*」は「*Vat*」又は「*ouat*」とも聽える。これは半母音の項にて更に詳述する。(未完)

タイ國、各國大公使任命

- バーヒット、ナウアラート
- 任伊太利國駐劄特命全權公使
- ブラサーツ・チューティン
- 任瑞典國駐劄特命全權公使
- ヴィラ・ヴィラヨーター少將
- 任滿洲國駐劄特命全權公使

日タイ同盟を慶ぶ

◇ 日タイ人消息五篇 ◇

前神戸商工會議所會頭岡崎忠雄氏は昭和十三年以來毎年私費を投じて本協會幹旋のもとに日本語修學中の日

本語修學中の日タイ國學生團を招致して、我國の經濟、文化諸方面にわたつて觀察せしめ、既に昨年度を以て回を重ぬること四招致學生數四十名に及び、日タイ親善に貢獻する所大なるものがあつたが、本春早々岡崎氏よりこれらの會つて招致したタイ國

學生諸君に贈つた年賀狀に添へて日タイ同盟を慶祝し、益々日本語を勉強するやう激勵した所、最近受信者中の五君より返信が同盟締結後のタイ國の近狀や同盟を衷心から祝福する心を傳へて來たので原文のまゝ次に掲載する。

タイ人は皆喜んだ

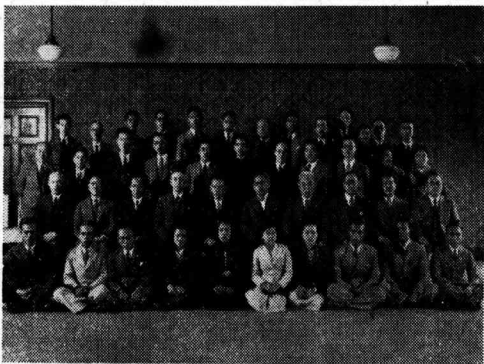
新年おめでたう。

お手紙ありがたうございます。お手紙を受けた時、わざわざ私たちが忘れない事を思出して、嬉しくてたまりません。四年たつてもあなたの深切は忘るべからざることです。日本國からかへりました時、大學にはいつて、法律を勉強して居たので、一時の日本語の勉強する事を止めなければなりません。今、大學で學位を取つた、さうして税關の役人になりました。またもう一べん日本語を勉強して居ます。タイ國には、人々は日本語をよく分りたいので、私は自分で日本

から買った教科書や字引で一先けんめいに勉強して居ます。よい偶然が有りますれば、また日本の法律の研究に日本に行くつもりでございます。

タイ國と日本と同盟を結びましたと聞いた時、タイ人は皆まことに嬉しくなりました。さうして、アメリカと英國を宣戰した時、もつと大へん嬉しです。ラヂオや新聞から、タイ軍と日本軍と一しよに英國のへいをやぶつて進軍して居るたよりを聞いた時、大喜びました。日本軍はところへん勝ちまして、最後には我々は戰爭に勝つ事はちがひません。タイ國には、タイ人は皆眞心をもつてにこにこして日本兵たいをお持成して居ます。タイ人は日本語を習つて、日本人もタイ語を習つて、一しよに兄弟のやうなお話しをして居ます。日本の兵は道で通つて行くと、「はんざい」ありがたうと子供は大聲で嬉しうに叫びます。或日私は乗合自動車待つて道ばたに立つて居ました。一人の日本兵たいさんは私に「英

勇ましい日本兵



昨年年度岡崎氏タイ國學生團招生致謝記念撮影

語を分りますか。東京屋はどこですか」と英語で尋ねました。私は「シイビヤア道にあります」と日本語で答へました。日本語を分る事を見た時、其の兵たいさんは大喜びにバンコクの地圖を出して私に教へさせられました。私は彼にシイビヤアへ行く電車を教へてやりました。電車は來た時、兵たいさんは「あいさつして「どうもありがたう」と言つて、電車に元氣よく乗つて行きました。私たちは皆丈夫でございます。あなたにお手紙を書いた人がたくさんあるのではありません。あなたはご丈夫でございますか。日本語をまだよく分らないから、このお手紙を書く事は大へん困ります。もつと勉強して、間もなく今よりよく書けるのではありませんか。さうして、またあなたにお手紙を書いて來ましよう。さやうなら。

四月十八日

ビスオング オサタノン

ドウモ アリガタウ ゴザイマス。
アナタモ、ゴ新年オメデタウ ゴサイ

アナタヲ訪問スルノガ忘レナイ、サヨウナラ

仲の良い日タイ兵

オカザキ様
シンネン オメデタウ ゴザイマス。
オテガミヲモライマシタ、ドモアリガ
タウゴザイマス。ホンタウニ、日本ノ兵
タイサント、タイノ兵タイサンガ、ナカ
イイデス。イツモ一シヨニサンボヘ行キ
マス。

ワタクシハ日本語ヲ、一シヨケンメイ
ニベンキヨウシテ居マス。日本ガ、イマ
ハルニナリマシタネ、モウ、アツタカ
イデシヨ？ バンコックガコンゲツ、ト
ツテモアツスイデス。ミンナサンニヨ
ロシクツテ クダサイ。サヨウナラ

裏心から嬉しい

オテガミ アリガタウゴザイマシタ。
私ハタイ國ガ日本ト ドウメイヲム
スプロトニ タイシテ 心カラ ヒジヨ

ウニ ヨロコビマシタ。今、私ハ軍人デ
ゴザイマス。

トキン 貴方様ヲオモヒダシマシテ
テガミヲ ダサウトオモヒマシタガ 日
本語スコシ シカナラヒ マセンデシタ
ノデ オモフトウリニモ イキマセンデ
シタ。

私ハチカイ ショウライニオイテ 一
ドウ日本ヘ マイル キカイガ アルダ
ラウ トユメニ ミテ オリマス。
ミナ様ニヨロシクオネガヒ申シマス。
サヨウナラ
四月十五日
ブラバア ミンブラバイン

最初の日本語勉強

お手紙 有難うございました。
岡崎様には 御元氣のこと存じます。
私達見學團の 一行が日本の各地に 参
りました時は 色々方々見せて頂き
有難うございました。特に金澤貞三様に
は すつと終りまで御案内して下さいませ

ことにうれしうございました。
私達 一行は 元氣に泰國に かへつ
て 参りましたから 御安心下さいませ。
私は 初めて 日本へ見學に参りました
が 又機会があつたら 日本へ勉強し
に行きたいと思つてゐます。

泰國と 日本と 同盟を結び、泰國も
大東亞共榮圈に入りました。
今は 日本の鐵道隊が 私の工場に來
て居ります。此頃日本語を勉強する人が
澤山居ります。日本語が 必要に なり
ました。私は かねてならつた 日本語
で鐵道隊の つうやくを して居りま
す。

日本語を勉強した 人が えらいので
ございますね。岡崎様 どうぞ 御身體
を大切に して下さい。さようなら。
四月二十五日

テイロツク スワンピドウク拜

x x x

新聞論調

タイ語の簡易化

バーンコーク・クロニクル紙六月三日附社説

言語文化振興委員會の手になるタイ語の簡易化は、多年の要望に應ずるものであつて、世人はこの稱讃すべき事業を多大の興味をもつて注視してゐる。タイ語は藝術的で優美で而かも意志思想の仲介たる役目を立派に果し得る言葉ではあるが、あまりにも難しい言葉である爲に、外國人は素より大多數のタイ人自身にとつてもこれに精通することは至難な事業の一つとなつてゐる。例へば、そのアルファベットの中には、既に廢れて一般に用ひられぬ字が頗る多く、又字形は異なるが發音は同じであるものも少なくない。故にアルファベットからは是等の文字を削除する事によつて、タイ語の品質を何等毀損せず、その使用を少なからず容易ならしめる事が出来るであらう。

これを一層精神的な見地から見ると、タイ語の簡易化は山間僻地の住民その他一般に對するタイ語の普及を大いに促進するに違ひない。一般に國民といふものは、他面言語を同じくする者の集團であると云ふ考へが廣く行はれてゐて、世男各地の國家主義者の要望は多くの場合、同じ言葉を話す民族全體の共同の利益と云ふ形で現はれてゐる。そして一國民の民族としての性格は、その國民が共通の言語をもつか否かによつて、これを定めるやうになつて居る。

であるから學者は、スウイス、ベルギー、舊オーストリア・ハンガリーの如き二つ以上の國語を有する國々を非民族的國家又は複合民族的國家と稱してゐる。古今東西を問はず、一國民といへば、その政治的意味合ひは暫らく置き、必ず言語上ならびに文化上のつながりによつて結合されてゐると云ふ自覺をもつ民衆の集團である。國民意識を發揮して、國家としての獨立を主張する民族團體は、常に同じ言葉を使用する人民の結合體である。

故に、國民中にその國語を話さぬ者、又は國語の知識を缺く者があるならば、國語を教へてこれを同化し、國家の統一と國力の増進を計らねばならぬ。なぜならば、言語は國家的觀念ならびに忠誠の念の最も基本的な準據であると云ふことは一般の通念であるからである。獨乙人は純粹な獨乙語を話すことによつて自ら獨乙人たる事を感じ、佛蘭西人は彼の美はしきフランス語を話すが爲に佛蘭西人であり、英國人は其の標準英語を話すことによつて英人である。これと同様にタイ人はタイ語を話す事によつて眞にタイ人たる事を感じるであらう。そしてタイ人が自國語を一層たやすく読み且つ書く事が出来るならば、その國家意識と國家に對する忠誠の念は必ずや増進するであらう。故に、全國民は、首相の提唱する言語文化の振興について委員會の完成した有用な事業に對し感謝を表すべきである。

農 業 貸 付

バンコーク・クロニクル紙六月十九日附社説

過去數十年來、工業經濟の大なる進歩を見たが、その間農業の重要性も決して輕視せられなかつた。農業は多くの國に於て今尙最も主要なる職業である。何故ならば、農業が食料及び原料物資の主たる生産者として有する地位は絶

對にこれを見逃がすことを得ないからである。農夫が國家の支柱であることは今も昔も變りない。

タイの農民は一般に三つの主要な難問題に直面してゐる。第一は多額の負債で、これは最も重要な問題である。第二は灌溉施設のないために、耕地の生産力は殆ど降雨その他自然の恵みによらねばならぬ事、第三は生産品の賣却及び日用必需品の購買について外國仲介人に依らねばならぬ事である。是等の問題やその他、程度の差こそあれ種々の問題のためにタイ國農民は常に收支相償はず、その安定を脅かされて幸福な生活を得ないこと既に久しいのである。

然らば農民は何故にかくも多額の負債を負ふに至つたか。それは、經濟組織が商業化したために、農業經營の過程に於て多額の流動資本を必要とし、又、物質文明の影響によつて農民とその家族の生計費が増大したためである。自給經濟に於ては自己とその家族の消費を賄ふためには二エーカーか三エーカーの耕地で充分であつた。然るに新らしい組織の下に於て競争に耐へるためには、一層生産力の大きな、一層廣大な土地を必要とし、又改善された農具をも必要とするのである。一般の農民は是等の必要に應ずる資金をもたぬから法外な利子であつても、擔保其他貸附條件が苛酷であつても、已むを得ず借金をするのは寧ろ當然である。その上、農民は額に汗して得た収入を濫費する傾向があり又仲介商人は多年の經驗によつて種々の搾取方法を講ずるので、これ等の事が益々農民を不利にするのである。諸外國に於ても、農民はこれと同様な悲惨な状態に置かれた。これを改善するために各國政府は、主として貸附を中心として種々の救済方法を試みた。エジプトの農業銀行、フランスの不動産抵當銀行、ジャバのデザバンクやデザロンボンク等はその試みとして設立されたものであるが孰れも短期間の存在に終つた。最初、是等の機關は農民の經濟的地位改善に役立つかに見えた。然るに、その成功は早熟であつて一時の俄景氣の後間もなく次々に失敗した。失敗の最大の原因は貸附けた資金について農民を監督しなかつた事にある。貸附銀行が資金を貸し出した場合、農民を

して必らず有利な生産的な目的のためにこれを使用せしめ、そして資金の返還を確保せしめる方法が定められて居なかつたのである。そのため多くの貸附は償還せられず、銀行は損失を避けるために抵當權を行使せねばならなくなり結局農民は従来よりも却つて状態が悪くなつた。かくして、是等の機關は農業貸附問題の解決に完全に失敗したのであるが、是等貸附機關の出現によつて、新しい社會的、經濟的問題を惹起した。

タイ國政府も農業扶助問題については決してこれを等閑に付して來たのではなく、タイと同様な境遇にある諸外國の採用し又は試みつゝある方法を研究した結果、組合運動がタイの國情とその所要に應ずる最も適當なものであると云ふ結論に到達した。そして先づもつて最大の急務は、農民の直面してゐる現實の破滅を避けるために貧農に對して低利貸附方法を講じる事であるとの結論を得た。その結果、協同信用組合が一つの試みとして佛曆二四五九年（西曆一九一六）に創始せられた。この試みは非常な好結果を得たので更に廣汎な各種の目論見を促がし、今日まで殆ど全國各地の農民に限りない利益を與へてゐる。然し、農業貸附問題はこれに終始するものではない。協同貸附は農民間に頗る好評をもつて迎へられてゐるが、この運動は今後尙打勝たねばならぬ多くの障害をもつてゐる。

現在、この運動は佛曆二四八三年の組合公債から資金を得て居つて、其中約千七百萬ベーツを使用した。組合運動の成功と貸附の安全は、主として嚴重な取締と統制（タイに於ては政府の力によらねばならぬ）によつて得られるのである。従つて、多數の組合役員を要し、又これ等の役員をして其の組合員と常に緊密な連絡を保たしめ或は一一般經濟調査をなし、或は組合設立を有利とする地方に對してその設立を助成する等のために必要な經費支出を要するのである。かくして、貸附の圓滑と貸附資金の迅速な回收とが確保され、その結果國家の信用機構を安固ならしめ、農民の繁榮を齎らすこととなるであらう。

資料欄

ファン・フリートの「暹羅王國誌」による

アユチャ時代の宗教（一）

奥村鐵男譯

こゝに譯出したものは、一六二九年より一六三四年まで、オランダ東印度會社の商館長として、暹羅の首都アユチャに在つたエレミアス・ファン・フリート (Jeremias van Vliet) の著、『暹羅王國誌』Beschrijving van Liët Koninkrijk Siam, Leiden, 1692) の英譯 (Description of the Kingdom of Siam by L. F. van Ravenswaay, the Journal of the Siam Society, Vol. III, Part I, Bangkok, 1910) をテキストとしたもので、當時の事情を知る上に於て、また今日のタイ國を理解するにあたり、これにつゞく「社會生活」と共に、興味ある資料を提供してゐる。

一六〇二年オランダ東印度會社は、その商館をパタニーに設け、翌年當時の商館長ダニエル・ファン・デル・レック (Daniel van der Leek) が暹羅を訪れた結果、一六〇四年にコルネリウス・スベックス (Cornelius Spex)

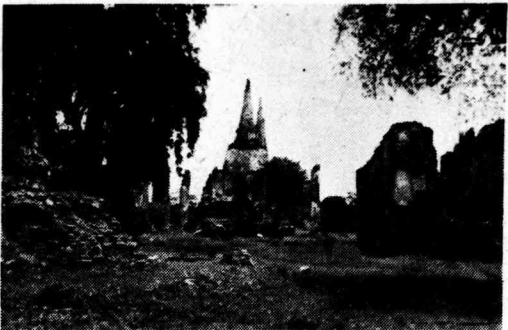
を派遣して、アエチャに商館を設けた。スパックスについて、トウルネマン (Tournehan) フアン・デル・ヘル

(van der Perre)、ラムフレド・ヤーロブス (Lambrecht Jacobs) 等々が商館長となつた。これらの人々の記録が、フアン・フリートが商館を管掌して、興味深い著述をなすにあたり、必ずや大いに役立つたことと思はれる。

フアン・フリートの前任者ヨースト・スハウテン (Joost Schouten) は一六二四年より一六二九年までこの地に在つて、その見聞したところを書きとめてゐたが、フアン・フリートはこれから相當材料を得たことは明かだといはれてゐる。

フアン・フリートが商館長となつた時は、暹羅に於けるこの會社の地位は鞏固で、彼は商業上のみならず、當時の社會生活及び國情に就ても精通してゐたが、本書は彼の死後に至るまで上梓されなかつた。これは恐らくは、本書中諸所に散見する名詞等の綴りに、でたらめのものがあるといふ事實によるものと思はれると、英譯者はいつてゐる。

なほ、本書の姉妹篇をなす『暹羅革命史話』(Historiaal Verhael der sieckte endelood van Pra Interratsia 29 en Coninck in Siam.....) は、村上直次郎博士によつて邦譯され、最近出版された朝日新選書の『六昆王山田長政』中に收められてゐる。(譯者)



教會のごとくも、宗教及び寺院

暹羅の住民は異教徒で、偶像の迷信深い崇拜者である。それ故に、國內いたるところに、石や石灰や木材で、うんとかねをかけ、立派に建てた、大小幾多の寺院がある。これらの寺院は、見た目には往々にして、ヨーロッパにある教會よりもずつと壯麗で、たゞ硝子をつかつてゐないので暗い。屋根は赤瓦葺きで、板や鉛で葺いたものもある。アエチャ管内には、全國で主もだつた四つの寺院がある。即ち王室寺院・ワット・シイサム・ベベット、ナーブラターテ、ワット・ドゥン(この寺には月が祀られ、最高の學校が設けられてゐる)並にタイムピヤタイである。その上、市内及び附近に四百もの綺麗な寺院があり、多数の金ピカの塔や尖塔で飾られてゐる。どの寺も、いろ／＼な金石や金屬及びその他の材料でつくつた無数の偶像で埋まつてゐる。ある寺は金、銀及び銅で蔽はれて、端麗で立派で且つ高價に見える。どの寺にも、高さ四、六、八乃至一〇尋の大きな偶像が、いつも高い祭壇の上に安置してある。この坐像の一つは、眞直ぐ立てると二〇尋から一二〇呎のものすらある。ある寺々では、偶像の臺座の下に、金や銀の莫大な財寶が埋めてあり、紅玉、寶石及びその他の寶玉類もまた、ある塔や尖塔のてつべんにしまつてあつて、いつでも神々の御用に立つやうになつてゐる。暹羅人の間では、この財寶の莫大な値打に就いて、荒唐無稽の話が語られてゐる。世人は、ワット・シイサム・ベベット及びナーブラターテの偶像の下にある財寶で、滅んだ一つの王國が復興出来るといつてゐる。人々が私に指して話した如く、タイムピヤタイの塔には、高價な紅玉があつて、その値打は殆んど見當がつかず、何人といへども、神々に捧げた富を持ち去らせないため、大勢の死人の番人がそこにゐる。これは次のやうに説明されるのである。若し誰か官吏が——金持であらうと貧乏人であらうと——寺か神々へ人間の身體を供へた

いと思ふと、彼は自分の奴隷中最も實直で、最も有能で、しかも遺手の人間を一人またはそれ以上選び出す。彼はこの奴隷を、自分の子供のやうに扱ひ、盛んに友情を示すのである。これで奴隷は、その主人に大變なついで、どんな要求でも斷ることが出来なくなる。そして、財寶が供へられる日が來ると、主人が奴隷にこのことを話して、供物の番人となつてくれるやうに頼む。奴隷はこれまで受けた名譽で、頗る不思議にもいふことをきいて、進んで申出を承諾する。そこで、彼は早速眞二つにされ、穴の中へ投げ込まれて、死骸の上に金かねがのせられる。殺された人間の精靈が恐ろしい怪物となり、供物を護る力をもつので、何人もこれを盗むことは出来ないのである。

アユチャの荒れ寺の怪



らす口を緘して、自分の考へを發表しなかつた。これが王様の逆鱗に觸れ（といふのは、王様はこの世に於ける王者

としての威權を失はねばならないことを恐れて）、親ら千年の豫言に説明を加へ、王は萬物の更新者たるべく、國民は多數の新らしい寺院を建立したり、修繕して、各人が神々からその善行に對し報ひを受けるやう奉仕しなければならぬといつた。かくして王は、萬事を精神的に變へようと考へた。これに鑑み、王様は全國の主なる寺院を悉く無人の地にあるものさへ修繕をさせた。アユチャでは、王城の中庭には、素晴らしい大きさと高さの寺院があつて、全國にはこれに匹敵するものがない位である。柱は三尋以上の太さがある。しかし、年が経つに従つて何もかも腐朽して、誰かがいつてゐた如く、落雷のため倒壊してゐたのである。この寺院は著名な靈場で、その下には非常な財寶が埋めてあるといはれてゐる。しかし、この寺は、眞實の後繼者であり、且つ古い純粹な血統の王様でなければ再建されまいとの、古からの豫言を坊さん連がもつてゐる。多くの前代の王様がこの寺の修繕をしかけたが、仕事をしたものは誰も彼も直ぐ死んでしまつた。親方とか監督とか棟梁とかど氣絶したり、氣狂になつたり、盲になつたりなどして、大勢の人間を失くしてから、仕事を中止しなければならなかつた。しかし、この寺に關する豫言とか、如何いふことが起つたとかいふことは、王様にはよくわかつてゐて、王自身もまた王位を不法に奪つたことをよく知つて居たが、その極まりなき傲岸と自負とからこの寺の修繕を始めるつもりであつた。しかし、婆羅門僧たちが時機がよくないと諫言したのと他の豪膽な役人の諫止により、修繕は取りやめとなつた。この寺に就いては、もつと〜話したいことが残つてゐるが、一から十まで眞偽のほどは保證しかねるので、こゝらで割愛する。(つづく)

〔挿入寫眞は共にアユチャ寺院の遺蹟〕

クラを繞る諸問題

——特に昭南港との關聯に於て——

椛 島 輝 夫

四六

- 一、新嘉坡への脅威
- 二、調査報告の再検討
- 三、クラの地誌
- 四、英獨の宣傳戰
- 五、クラと昭南港
- 六、クラの利用性に關する問題

(一)

世界三大洋を横に連ね、南北六大陸を縦に結ぶ地形的脆弱點が、地球上低緯度地方に三ツ並んでゐる。それは、パナマ地域、地中海地域、亞濠地域とも稱すべきものであり、當然世界交通の要衝に立つた。而して前二者には既にパナ

マ、スエズ兩運河が開鑿され、その經濟的、軍事的價値は愈々高きものがある。亞濠地域に於ては、極端な地形破綻により、縱横の海路を通じて小規模な交通が行はれてゐた。併し乍ら葡、西、蘭諸國が南洋に於ける香料を繞つて相角逐してゐた、歐人南洋支配の早期に於ては、同地方交通の中心は寧ろスンダ海峽以東にあつた。少くともマラツカ海峽が近代交通政策の對象として本格的に泛び上つて來たのは十八世紀末以後の英國の東亞進出により、これが印度東亞間の恰好の航路と認められて以來のことである。更にスエズ運河の開鑿、汽船時代の登場ともなつて、從來の連絡路は迂路として全く世界交通から見棄られ、かくして亞濠地域の世界交通政策上の價値はマラツカ海峽を中心として西遷するに至つたのである。即ち、英國は一七八六年にビナン島を占領し、一八一九年には新嘉坡島の重要性を看破してこれに英國民移住を行ひ、次いでその對岸リオウ群島の占據を行ふ等矢繼早にマラツカ海峽の確保につとめたのである。このマラツカ海峽、とくに新嘉坡港が英國の東亞に於ける前哨基地としてその繁榮を誇るに至つたには種々の原因があるであらう。そして、その一つが印度を通じて來る脈々たる英國の權勢により、東亞のあらゆる重要資源をこゝに集中し分散してゐた事に在るのは勿論であるが、更にそれが英濠米の印度洋、太平洋方面よりする連絡路の中央に位してゐた事實に依る處極めて大である。而して第一次歐洲大戰に至る間、數世紀にわたつて築き上げられた英國の繁榮が、主としてその海外植民地資源に依存してゐたのであるから、印度及び濠洲その他の主要植民地をその兩翼に把持する新嘉坡の繁榮と重要性も愈々増大するばかりであつた。馬來半島をさしはさむ印度洋とタイ灣との地理學上の水位は古今を通じて變化はないけれども、その政治的水位は、現在と從來とは全く異つてゐる。前述の如くしてその繁榮と重要性を獲得した新嘉坡からは、西方よりする英國の政治的勢力が奔流の如く東亞に流入し、た

四七

めに統一的な國家體系を有してゐなかつた東亞諸民族は、その植民地たる与否とを問はず悉く英國の翼下に褶服する

に至つたのである。實に新嘉坡は、東亞全土に根強く張りめぐらされた英勢力の墳出口たる、極めて重要な役割を演じたのである。かくして英國朝野の新嘉坡に對する信頼の念は、何物にも譬へ難いほど鞏固なものであつた。然してこの絶大なる信頼の念を根柢より揺ぶり動かさんとて嵐の如き脅威が新嘉坡に降りかゝつて來た。それがクラ運河開鑿問題である。英國の周章狼狽は目に餘るものがあつた。そして彼等の選んだ手段は、かの軍事的恫喝と政治的策謀と強壓的宣傳とであつた。

然らばクラの新嘉坡に與へた危機とは如何なるものであつたか。英國の怖るゝ處は、同運河開通によつて日本の印度への進出を容易ならしむるのみならず、折角多年の經營に掛るその軍事的前哨諸施設が孤立に陥るものと推斷される事であつた。然り、當時の英國としてはその東洋支配の重點を一に新嘉坡に倚り掛けてゐた。併しクラの開通は、よし不完全なりとも、その新嘉坡を他處にしてタイ灣と印度洋とを直線的に連結するものであつた。これを政治的に見れば、我が國の政治的指導力が印度洋を直接に支配することとなり、これは又西亞に進出すべき獨伊勢力との連絡を可能ならしめて兩者の政治的疎通が實現するであらう。併し乍ら英國の更に怖れたのは新嘉坡の軍事的價値失墜である。印度洋へ伸びた日本の勢力は當然ベンガル灣に於て新嘉坡と印度との交通を遮斷し、新嘉坡の危機のみならず印度自體さへ脅威に曝され、又獨伊との軍事的握手が成れば、英國は遂に近東一帯の地より撤退せざるを得ぬ破目に陥るのである。經濟的見地よりしても、タイ國が從來の新嘉坡への依存經濟より脱して、日本と共に、獨自の或ひは日本の船舶を以て直接に對歐貿易に従事し得ることとなれば、新嘉坡の經濟的地位も從つて失墜せしめられるであらう。英國が、再三にわたる自身の手による調査の結果クラ開通の不可能なるを知りつゝ、なほその幻影に脅えて東奔西走運河實現を阻止せんとしたのは何故か。この疑問こそ、世界情勢の一變せる今日に於てもなほ極めて重要な示唆

に富むものである。

(11)

クラ地峽を通じて兩海洋を連結せんとする計畫は數百年も昔からのことである。そして燧石やその他の古器が発見せられる處から、極く昔でも活潑な交通がそこで行はれた事が解る。アンコール・ワットの建築物に永久的な刻印を残す強烈な印度の影響は、多分クラを越えて打ち寄せたものであらう。中世紀に於ては、旅行者はクラの西岸に上陸し、象の背に揺られて地峽を渡り、再び小舟を繰つて當時の首都アヌッタヤーを訪れたのである。従つてそこには繰返し運河問題を引起した積極的な理由があらねばならぬ。

一八四三年の昔、ビルマ人によりこの地方の調査が行はれたがその結果は殆んど絶望であつた。即ち全長一二二軒もの地域の開鑿は極めて困難であり、運河建設には約一五〇萬英鎊を要すると云はれた。(The XXth Century Vol. 1 No 3)

それより二十年後、ベンガル政廳の命に依つて海軍大佐アレクサンダー・フレージャー及び海軍大佐フォーロング(Captain A. Fraser, Captain J. G. Fortong)により詳細なる新調査測量が行はれた。彼等はパークチヤン河をポイントでクラまで遡行して、右横斷路を東へ抜けた。併し乍ら彼等のベンガル政廳へ提出せる詳細なる復命書によれば彼等は何れも運河建設は問題外と爲し、「ベンガル灣と支那海とを結ぶ、長い、危険な、迂遠な、そして兩洋間の經濟發展を著しく阻害しつゝあるマラッカ海峽ルート」を避けるため切に鐵道布設を強調したものである。パーンコーク・タイムズ紙上に於てはその開鑿不可能なる理由を詳らかにされてゐないが、大體第二次の調査結果と同様の見地

に立つものであらう。

即ち、更に二十年後の一八八三年には、フランス王室地理學協會員ロフタス(A. J. Loftus)海軍中佐は、クラ地峽を調査すべく渡タイしたフランス政府派遣の専門家六名より成る調査隊を先導し、慎重且つ精密な調査を行った。同調査に要した日時は同年一月十六日より二月十九日。その調査経路を詳述すれば、先づ豫備調査のためチュムボーンから南進し、同地から半島一つを隔てる南に隣りしてゐる灣の西南隅に注ぐサウイー河(チュムボーンの直南四〇杆)及びチュムボーンの直南數百杆のランスアン港に注ぐランスアン河を踏査した。次いで後河をボートの進む限り廻り、爾後象背によりパークチャン河口のラノーン市西岸に抜け、同河を廻行した。最初約四〇杆上流の東岸に西流して注ぐチャー・フーン河を探索したが、巨大な山岳に阻まれて通過し得ないのを知つて更に引返し、本流をクラ河口より約百杆まで廻行し、爾後クラより陸上を東岸チュムボーンへ達した。この間ロフタス氏は調査隊と行動を共にし、充分なる調査の結果その様な運河は全く不可能であると云ふに歸着した。

同年刊行された同氏の覺書^(註二)より次にその調査結果を紹介する。

クラ・ルートは不規則な様體をなす山岳の完全な集塊を通過してゐるから、路線自身が著しく彎曲と起伏とに富んでゐるのみでなく、最初約四哩は東走してゐるが、爾後約五哩の間は深く南折して所謂クラ峠を越え、更に東北東に五哩ばかり直走してゐる。それからは東走し、約五哩で平地に下りる。山岳地帯を走る道路の延長は約二〇哩で全長の三分の二に當り、その平均標高は一三〇呎、クラ峠で二五〇呎である。この路線は他の半島横斷路よりも標高が低い點に於ては運河計畫線として最適であるが、然しこの路線は山頂を横ぎるものでなく、錯綜してゐる群山の谷間を縫つて走つてゐるから、紆餘起伏に富む點に於ては、他の半島横斷路線と何等擇ぶ所がない。この點は運河開鑿に多

大の困難を提供してゐる。即ちこの路線に沿ふて運河を開けば、標高は低いが運河に頗る不都合な拗緩を與へることとなり、直線に掘ると平均標高は遙かに高まり——この附近の山脉は海拔四千呎——著しく多量の物質を掘除しななければならなくなる。今假りに右象路に沿ふて水面下の深さ三〇呎の運河を掘れば、運河の底よりの平均標高(山岳地帯に屬する象路の)は一六〇呎となり運河の横斷面の上部を一九一呎底部を七七呎傾斜二〇度とすると、實に八三、八五四、二二二立方碼(二二、六四二、一九〇噸)の山地を掘除せねばならない。而もその七五—八〇%は堅硬な岩塊であると云ふに至つては思ひ半ばに過ぎるものがある。今假りにこれを掘り得るとしても、この著量の物質を何處に運んで埋めるか、一部は計畫線の西端に運んで始末されようが、大部分は十數哩の山間を運んで東部の米田に埋めなければならぬ。而も之は運河に極めて嫌忌される拗緩を考慮せず、最も標高の低い象路に沿ふて掘鑿される。半島に於ける最短最適な計畫線であることに想到すると、全く話にならぬ話である。假りにこの横斷運河の掘鑿を可能としても、茲にまだ第二の困難に遭會する。それはパークチャン河の航行能力である。パークチャン河の上半は、纔かに汽艇やボートが屢々坐礁しながら航行し得るに過ぎない。又假りに、(イ)この上流に航行能力を興へ得るか、又は(ロ)航行可能な部分に運河の入口を設け得るとしても更に他の困難が出現する。この附近一帯には錯綜した群をなし又は鏈鎖をなしてゐる高峻な山岳が一面に蟠つてゐる。故に(ロ)を可能としてもパークチャン河の左岸から斜にクラ峠の東方の象路に曲りなりにも運河を開鑿する可能性は全然ない。又(イ)を可能としてもパークチャン河口の水路が問題となる。河口の水路はヴィクトリア島の南北に二條ある。北道は狹隘で曲折してゐる上に沈岩や轉々と移轉する砂洲が散點してゐるから、航行は危険である。この點で南道は遙かに勝れてゐる。が然しこの南水道は岩石の多い二地點間(幅半哩)を通じてをり、廻航して左舷には砂洲がある。更にヴィクトリア島の東方には、深さ二尋

半乃至二尋四分ノ三の砂泥の門洲がある。この上に西南季節風が眞向に吹き付ける燈臺や標識などを適當に設けるなら、小型汽船の航行には可成り安全ではあるが、大型船舶の航行には問題なく危険である。要するに之が完成には一國の富と一世紀の時日とを要するもので、之が實現の機會は四日で月に達する機會を求めると等しい。(東亞十一卷九號より)

尙當時盛んにその觸手を伸ばしてゐた安南(翌四年保護國とす)その他の地理的關係上、クラ運河の實現を最も歡迎すべきフランスが、當の技師隊の得た結論さへも發表せず、爾後同問題に超然としてゐたのは、右の如きロフタス氏の結論と同様の點に到達した故と判斷される。

(註1) 兩氏は海軍大佐なりや陸軍大尉なりや船長なりや不明であるが、運河關係のことゝて海軍大佐であらうと思はれる。

(註2) ロフタス氏の覺書は前記フレージャー及びフォロング兩氏の報告書と共に解説書を添えて新嘉坡とロンドンとで發表されたが、現今では英國王室地理學協會(Royal Geographical society of England)に保管されてゐる。これより推し知るに彼は恐らく英國人であつたであらう。

(三)

併し乍らクラ運河の開鑿はパナマ、スエズの兩運河に比較すれば遙かに技術的に容易であらねばならぬ。パナマ運河は標高約一五〇米のクレブラ山脈の分水嶺を深さ八三米、距離八〇杆開鑿する必要があつた。而もその地質は火山岩、第三紀層、及び中生層の如き掘鑿困難な地層より成つてゐる。

更にスエズを見るに、運河の全長は一六二杆に及び、而もその地質は粗鬆な砂漠の砂であつたため建設に非常な困

難が伴つた。(第一表参照)

第一表 三運河延長及び工事費比較

運河名	建設年	延長	掘鑿土量	工費概算	摘要
スエズ	一八六九	二〇一哩	七、五〇〇萬立方	一六、六三三、〇〇〇磅	底幅七二呎、水深二六、二五呎、擴張後底幅九七呎、水深四二呎、從つて工費約三倍となる。ピタハ湖二一哩、陸上掘鑿延長八〇哩
パナマ	一九一五	五〇哩	一、三八〇萬立方	三、七五〇、〇〇〇弗	底幅三〇〇呎、水深四〇呎、ガドウ湖二〇哩、陸上掘鑿延長三三〇哩
クラ		三五哩	一、〇〇〇萬立方	八〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓	底幅三〇〇呎、平面四〇〇呎、水深四五呎、陸上掘鑿部延長約二〇哩

(港灣二〇卷四號より)

併し乍ら、開鑿に最適と目される地帯に於ける豫定運河は、その長さ僅かに五六杆、分水嶺の高さも七五米内外である。(註三)

(註3) 前記ロフタス氏覺書中には、附近の山脈は海拔四千呎(二四〇〇米)となつてゐるが、詳細なる地圖によるも同地方高山ですら六一七〇〇米である。

更にこれを地質的に見れば、ピクトリヤ岬に終るビルマ領テナツセリム地方は下部古成層より成るが、タイ領クラの中央部は上部古成層、即ち二疊石炭紀層をなし、これとタイ灣岸現世層及びタタパウ河、サウイ河の上流地帯との間には、北々東より南々西に流れる二條の花崗岩石英斑岩層の断片が散在してゐる。二疊石炭紀岩は古代の水成岩層であり、東南アジアの標準地層をなしてゐる。それは北は雲南より南はニューギニヤに至るまで分布してゐるが、タイ國に於て甚だしい褶曲を受けて居るため元の層理は殆んど認め得なく、又著しい風化と侵蝕を受けてゐる。(能登

ビルマとの國境線はテナツセリム山脈を下つてクラに至るや、分水嶺を離れて印度洋岸のパークチャン河に入り最南端ヴィクトリア岬で終る。このパークチャン河は深さ一〇米で非常に奥行のあるチャンパ灣を有し、運河の西方出口には是非利用さるべき絶好の地形である。タイ灣側には小河流が無數に這ひ、新らしく隆起したブーケツト山脈の水を集めてゐる。カオ・ドウン山（七〇一米）より出でチュンボーンを経て流れるタバウ河、カオ・ターネウー山（六三四米）より出で夫々チュンカー、サウイーを過るチュンカー河、サウイー河などその主たるものである。

海岸線は東西何れも極めて複雑多岐であるが未だ良港の出現を見ない。船舶の出入して居る港と云へば東岸に於てはソングラー港、ナコーン・シータマラート港、コ・サムイ港、バインドーン港、チュンボーン港、西岸ではブーケツト港、パークナム港等の存するのみであるが、近年叫ばれて來たソングラー港改修問題はクラ問題に關聯して興味ある存在である。

東西兩岸とも島嶼には非常に恵まれ、西岸に於て特にそうである。西岸の島嶼はこれを大觀すると北部より南部へ下る程微塵に碎かれた小粒となつてゐる。メルグイ諸島の島嶼の主なるものを列擧すればマツテウ島、ダヴィス島、コ・チャーン島、及びバヤーン島、チャーン島、マイー島、パーク・ナン島等である。更に深く印度洋に入れば、スング列島系に入るアングマン諸島がマレー半島を蔽ひ護る如く平行に並んでゐる。これは印度支那の前哨基地として價値高きものと認められる。クラの東海岸にも極く小さな島々が、海岸線の出入に沿つて散在してゐるが、バインドーン沖にコ・サムイ島、コ・バガン島、その他の島嶼が見受けられる。海深は東岸に於ては海岸線より直ちに一〇—二〇米と沈んで行くが、タイ灣は一般に淺く、最深つひに一〇〇米に及ばずして終る。西岸はその無數の島嶼の關

係上單調ではないが、マツテウ島の沖合八杆にして既に三六米となつてゐる。アングマン諸島との間は一體に三千米臺であり、四千米を越す場所もある。

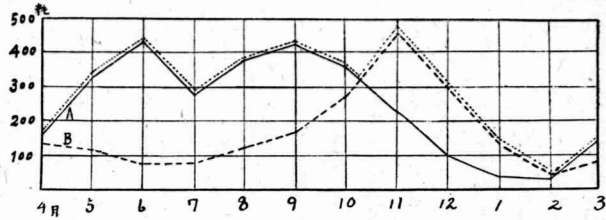
尚、東西兩洋の水位は同じであると云はれてゐる。

陸上交通は東海岸に發達し、バインコークより新嘉坡に通ずる南部鐵道が海岸線に沿つて南下し、この地方の交通の主幹をなしてゐる。國道はチュンボーンを出てチュムボーン河を廻り、パークチャンよりクラブリーを経てラウンに至る。これは延長されてブーケツトに通ずる豫定である。更にラウンよりサウイー河に沿つて下り、サウイーに至る道路もある。これらの諸道路は同地方の錫採掘に多大の便宜を與へてゐる。

海上交通は前述の諸港間に小中型船舶の往來があるが、タイ灣沿岸にはタイ・スツリーム・ナヴィゲイション會社の定期航路がある。その他は極く小型の漁船等が交通してゐるのみである。チュンボーン灣は風光飽くまで明媚であるが、更に漁業の中心地としても著名である。漁獲物は主としてタイ水産物の重鎮たるブラー・トウー（鯡に類する魚）で、國內消費に費費されるのみでなくその乾魚や鹽魚は豊かな海外市場を有し、タイ國の重要輸出品となつてゐる。その他燕巢も産出される。従つて町には支那人の漁家が櫛比し、港は無數のジャンクで埋められ、タイ灣巡りの定期船や大會社の魚送船なども寄港する。（三井タイ室「暹羅案内」より）一九三七年の國勢調査に寄れば、チュンボーン縣に於ける總人口は一〇一、八四七人である。

印度支那半島には典型的な季節風（モンスーン）が吹く。夏季にはアジャ内陸に生じた低氣壓が北上し、海洋の濕潤な、氣壓の高い空氣がこれに伴ふ。五—十月にはこの南西季節風が吹く。然るに十一月を過ぎると濠州地方に低氣壓が生じて東行し、これはアジャ内陸の乾燥し、高氣壓となつた空氣を誘ふ。従つて前者の場合は雨期、後者の場合

半島部に於ける雨量分布圖
 (A:—西岸2,886.6耗) (B:—東岸2,060.1耗)



は乾期となる。併し乍ら半島部に於てはこの雨期と乾期とが劇然としてゐない。即ちアジア内陸より来る反對季節風は、テナッセリム及びブークット山脈に當つて半島東部海岸に雨を齎らし、この地方では殆んど一年中降雨を見る。季節風の齎らす降雨は風上の海岸地帯が最も多く内陸に行くに従つて減少するから、タイ國內で最大の降雨量を有するものこの地方である。更に又西海岸地方では濕地多く熱病に充ち、海岸には廣く紅樹林が擴つてゐる。この熱帯性の森林地帯は人口極めて稀薄で、僅かに海岸に放浪生活を營む漁業民族たるオラン・ラウントがあるのみである。

この地方の気温は大體二六度で、臺灣南部より稍々高い程度である。

上に半島部の降雨量分布圖を示す。(能登志雄氏「タイ國地誌」より)

風の方向と船舶とは非常に深い關係を有する。クラ地帯に吹きつける季節風は冬期は東北風、夏期は南西風であるが、これらがその兩岸に於ける微風とはなつても、船舶の交通を妨げる程の波浪を起させるものとは考へられない。海岸線の出入、及び散在する島嶼が少くとも船舶の危険を防ぐことは確かである。昔の帆船時代にてはこの地方の季節風はその舟航に不可欠のエネルギーであった。併しマラツカ海峡ではその兩側の山嶽地帯に遮られて都合のよい風向を得ることが樂でなかつた。(岩田孝三氏「地政學」より)今日に於てもその風向が

船舶の交通に多少なりとも不便を與へ、舟航能率の低下を來してゐることは想像し得る。若しそうだとすれば、これは記憶に止めて置くに價値あることと思ふ。

(四)

クラ運河開鑿の風評が英國の心膽を寒からしめたのは既に數十年以來のことである。特に一九三六、七年頃より、世界の新聞、雜誌は一齊にこの問題に鋭鋒を向け、諸説紛々として止まる處を知らなかつた。そしてこれらを仔細に點検すると、その中に滲み出た英國の狼狽と、飽くまでこれに對抗せんとするドイツの態度など眼前に彷彿たるものがある。その故にこれら諸論評を一つ々々検討するのは、極めて興味あることである。そのためには先づ、當時の國際情勢、とくに歐洲情勢に一瞥を與へる必要があらう。

第一次歐洲大戰は同盟國側の慘澹たる敗北を以てその幕を閉じた。ドイツは、對外的に國際聯盟の羈絆に屈して再び起つ能はざる状態に沈淪し、國內的にも凄まじき經濟恐慌に見舞はれて正に崩壞自滅一步手前の悲運に逢着した。もがいても決してその危機よりは脱し得なかつた。この阿鼻叫喚に冷やかな流し目を投げ、その蔭であらゆる謀略の糸を繰るものは英國であつた。英國は米國の提議せる國際聯盟を世界に強ひ、その趣旨は兎もあれ、内面的にはこれを植民地の離反、新興國の抑壓の具に供したのである。そしてドイツを既に完服せしめたと誤認した英國は、東海に隆々たる國勢を張る日本に、矢張り早やな難題を提出した。再三にわたる海軍々縮會議がこれであり、これらの諸原因によつて支那の侮日、排日政策も又招來されたのである。かくして、飛躍する日本にとつて滿洲事變の勃發は歴史的必然であつた。併し英國は唯日本の隆昌を抑へんがためにこれを糺弾し、遂に日本の國際聯盟脱退、即ち日本

の世界的解放が實現したのである。

かくする内、歐洲には一世の傑物ヒットラー出現し、同じくドイツをして國際聯盟より脱退せしめ、その國內整備を急いでゐた。そしてドイツ再軍備の爆彈宣言を放つたのが正に一九三五年の事であつた。その翌年にはライラン・ド進駐、日獨防共協定の成立、その後には隣境諸地域の相續く合併等、ドイツの躍進は實に目覚ましきものがあり、この奔流の如き突撃を阻止する何物をも在り得なかつた。時の英首相チェンバレンは、東西に烽起した反英運動に唯狼狽するばかりで殆んど施す術を知らず、僅かに試みた手段が彼のミュンヘンに於ける獨總統との最後の會見である。ドイツは總力を擧げて更に前進した。そして東亞に於ける緊迫した國際状態を利用して英國の注意を八方に分散せしめ、着々と第二戰に對する礎石を打ちつゝあつたのである。

而して、支那事變に次ぐ第二歐洲大戰及び大東亞戰爭の勃發あり、既に諸方に生じた破綻を繕ふに奔走してゐた英國が、彼の尨大なる海軍力を以てしても遂にこの全地球的動亂を制壓し得べくもなかつたのは當然である。

かゝる情勢下にクラ問題を繞つて展開された英獨の宣傳戰は誠に壯烈なものであつた。試みに兩者の代表的論評を引用、列擧すれば次の通りである。

(1) ドイツツエ・コロニアル・ツァイツング紙(一九三五年十二月)

日本が最近タイ(シヤム)へ積極的進出を計り、運河開鑿を目的としてクラ地方にコンセッションを獲得せることは、既に公然の秘密となつてゐる。クラ運河の建設は遂に實現するであらう。それが英國の意志に反しようとも、その實現は疑ひない所である。同計畫著手の時期は、一に東亞に於ける政治的情勢の如何に懸つてゐる。就中、英國が歐洲問題に没頭せざるを得ない時が來て、日本の自由行動が默認せらるゝに至る時機の到來がそれである。かゝる時期が惠まれば、日本は躊躇なく英國の勢力範圍の眞只中に乗り出して行き、その利益の確保に努力するであらう。

(2) 一獨逸紙「新嘉坡の危機」(パタビヤ通信)一九三六年一月二十八日

タイの内務省顧問サコン・オラワーンは部下局長にクラ運河建設事業許可に關する全權を附與してゐる。首都バーンコク、及び同市近くのベチャプリには最近新工場が出現し、日本人技師の監督の下に特殊機械及び用具の製作が行はれてゐると云ふ。運河建設に要する總經費は約一千萬ギルダと見積られ、目下その準備作業に従事してゐる日本人技師者は數百人を數へ、タイ人労働者は八萬人の多きに及んでゐる。一九四〇年には早くも實現を見るべく豫定せられてゐる同運河完成の曉には、英國の根據地新嘉坡は太平洋に於けるその支配的地位を全く喪失してしまふであらう。

(3) マリン・ランドシャウ(蘭印紙より)一九三六年三月

クラ運河開鑿工事はパリーのソルボンヌで博士號を貰ひ、四年前タイに民主黨を樹立し、現在内務省土木局長たるタイ國務參議ルアン・ブラディット・マヌタームの支持の下に行はれてゐると云ふことである。彼と日本の技術家及び大藏當局との間には密接な聯絡が結ばれて居るに相違ない。

(4) ヴァイルツァフトステイーンスト誌(一九三六年四月二十日)

この計畫の實現性を否定するものとして、最近一部消息通によつて一九〇九年三月十日の英タイ條約が持ち出されてゐる。同條約は英領馬來の北部に位する四つの非聯邦諸州の英國主權隷屬を規定せるものであるが、更にタイは英國の利益に反するが如き如何なる施設も行ふを得ざる旨が規定せられ、尙條約文に明記されてゐないが、同條約の締結に際してタイは英國に對し次の如き事項を覺書によつて確約してゐると云ふ。即ち馬來半島中前記非聯邦の北部ラーチャブリー州の南端に至る地帯(この中にクラ地峽も包含される)を外國に割讓或ひは租借せしめざるのみならず、外國に依る貯炭所、造船所、或は港灣などの建設を許さずと云ふのである。而も同地帯は今日英米資本によつて開發せられつゝある錫鑛山の所在地として、英國政府發行の地圖には特に英國の勢力範圍として染め出されてゐる。

以上は主としてドイツ系の諸論文を掲げたのであるが、これを見ると、彼等は一般に日本が同運河開鑿に懸命の如く發表してゐる。これは英國の耳目を痛く刺戟し、その反對的行動の誘致に成功を納めた。又ルアン・ブラディット氏等に關する風評は決してタイの喜ぶ處ではなく、特に(4)の論文に於ては他誌の輕浮な論説をたしなめるが如くして

而も三十年前の英タイ條約を持ち出して英國の關心をそゝり、日本に對する論駁の合理的な論據を與へんとした。ドイツとしては當時、英國の東亞に於ける危機を叫び、その神經を遠隔の地に釘付けることに努めたものゝ如くである。ドイツが來るべき戦さに備へてその國內態勢を整備してゐた事實によりても、それは明瞭である。

次に英國側の論評を擧げて見よう。

(5) スラバヤ・ハンデルスブラッド紙「アルゲミーン・ハンデルスブラッド紙記者寄(一九三六年四月十六日)

廣田總理が海軍の任務なりと稱して居る日本の平和的南方發展は英・佛兩國植民地の間に介在するタイに勢力を扶植すべく努力されて居り、從つて英佛兩國が日本のかゝる行動を或る種の憂懼の念を以て見て居ることは當然である。更に前述マリオン・ルンドン紙の記事を反駁して、日本が遠き將來に於て海軍の戰略上本地方を現在より以上に有利に利用せんが爲には、今の内にかゝる處置を講じて置くことの有利なるを看取して居ることは確實だらう。併し、南支那海面に於て防禦上重大なる利害關係を有し、艦隊根據地を持ち且つ自國の利益保護の爲十分なる海軍力と空軍力とを派遣する能力を有する國がある限り、吾々の見る處ではクラ運河は大した役割を演じ得ないように思はれる。

(6) ステーツマン紙「クラ地峽の戰略的價值(カルカッタ)

クラ運河の實現は到底不可能である。又西方出口に利用すべきパークチヤン河はダイクトリヤ岬要塞の普彈距離内に在り、更に英國は今日あるを豫期してか既にメルグイ群島の散在する海上には常に嚴重なる監視をなし、就中同群島に大艦隊を碇泊せしめ、又險蔽に適する錨地の設置等を行つてゐる。

(7) ステーツマン紙「ベリスコーブ氏寄(カルカッタ) (6)への論駁

右論文は、クラ地峽の最峽の地點に廣き溪谷が山脈の間に横はつてゐること、及びこの溪谷の一部には日本人經營の錫鑛業會社が現に錫鑛山の爆破及び採鑛作業を行つてゐることを忘れてゐるのである。而も右作業場附近には丈高の雜草が密生してゐるので遠方より如何なる作業状況を偵察せんとするもその雜草に陰蔽されて、その目的を達する事は出來ないのである。この事實は未知の世界に如何なる事が進行してゐるかも知れない事を證明するものである。……タイ國側はダイクトリヤ岬を更に有利な高原より睥睨し、極めて好都合な態勢に置かれてゐる。……事實上このメルグイ諸島は無人境である。……最

近、同地方には日本人漁船が漁業以外の目的を有し、水路測量を行つてゐるとの事である。

かくの如く主として英國の流れを汲むこれら諸紙もその憶測を逞しうして日本のタイ國接近を陰に牽制し、英國の海軍力に依存し盡した筆致を以て敢てクラの重要性を過少評價せんとしてゐる。(6)と(7)とを對照して見ると、前者は英海空軍のクラに對する威嚇を仰々しく述べ立てゝゐるが、(7)はこれを虚妄なりとしつゝ尙日本の動靜に強い疑惑の念を投げ、英當局を刺戟してゐる。當時日本が如何なる國策を有し、タイ國と如何なる程度の了解が成立してゐたか、そして少くともクラ運河開鑿にどれ程の關心を有してゐたか、その真相は知る由もないが、(5)に於けるが如く當時の首相廣田弘毅氏まで引合ひに出されてゐる。而も日タイ兩國が完全に一身同體となつた今日この時、パホン中將の訪日に對する答禮使節として、同氏の渡タイを見た事は極めて興味深い因縁とも云ふべきものであらうか。

(8) エイシャ紙「アーネスト・オー・ハウザー氏寄(一九三七年二月)

本誌の昨年五月號にアンドリユー・エイ・フリードマン氏の寄せた論文「アジアの樞軸—タイ」は、日本がこの運河開鑿に財的援助をなすであらうとの報道を頗る重要視してこれに批判を下してゐる。併しその計畫は單なるジャーナリストの空想的産物ではない。自分は嘗つてビヤ・パホン首相との私的會見を試みたが、この時首相は、この運河開鑿に利害關係を有する主なる列國よりなる國際委員會を設立しては如何との意見を述べ、又この場合タイは同委員會に對し運河地帯を中立として割讓する用意があり、その代償として同委員會を組織せる列國は進んでタイの永世中立を保證すべきことを提議する意向を有する旨を語つた。……過般成立せる日獨防共協定こそは、東印度を日本及びドイツの勢力下に分割せんとする秘密條約よりなり、正に日本の南進政策の指標をなすものである。即ちタイに於ける日本の根據地クラ地峽は、實に東印度諸島及びこれらを防衛する地位にある新嘉坡を攻撃する絶好の足場となるものである。

アーネスト・ハウザー氏はスイス新聞の通信員として東洋に永年滞在した歐人新聞記者であるが、當時は米國に住してゐた。彼は米國の立場より英國と同手法の論説を發表してゐる。遇々締結せられた日獨防共協定が、大した論

據もなくこのクラ問題に結び付けられ、あらゆる流言が四方に飛んだ。彼はこの一文に於て、タイ首相との會見談を發表してその實現可能性を指摘し、英國に新嘉坡の危機を警告した。併しその際に、クラ運河開鑿には英國を介入せしむべきことを仄めかしてゐる。

かゝる獨英米の泥試合の外に取残されて唯その成行に氣を揉んでゐたのが御本尊のタイ國である。タイは彼等が自國の謀略宣傳を完徹させる爲に生み出した夫々の流説を打消すに汲々として、自身のクラに關する見解を明瞭にしつゝ、日本とても口を鍼して語つてゐない。試みに當時バーンコーク・タイムス紙上に現はれた論調を解剖するに、前記アーネス・ハウザー氏の論評に痛く慌てた同紙は、戦時には無價値なものをどうして開鑿しませうか、と英國の威嚇に屈して徒らな攻撃を中止すべく泣訴し、更にフランス調査團に依頼して開鑿不可能なる報告を得た旨發表した。又ビヤ・ボホン首相もハウザー氏との會見は無根の虚構なりと強く否定し、あらゆる策略の埒外に立たんとした。

(9) バーンコーク・タイムス紙(一九三七年三月九日)

ハウザー氏はその豫定運河の一端が氏の豫想する戰時的狀況の下に英國の主權下に在る事實に對して、如何なる見解を成すべきかを全然闕却した。……タイ國はクラ運河を開鑿せしむるために戰爭の起る事は希はぬし、またタイ自國の命じた過去の専門家の調査書が、假令タイ自身の手で同運河開鑿に着手しても、經濟的結果の思はしからざるを明かにして居る。吾々は列國が互譲公正の態度を持って、相共に共同の利益のために盡すことの賢明なるを悟らん事を希ふ。

(10) バーンコーク・タイムス紙(一九三七年三月十一日)

以下は外相が本紙記者に語つた大要である。ルアン・プラデイツト外相は既にハウザー氏の記事を讀して居り「その筆者が首相と會見したと斷言してゐるには驚いた」と語つた。と云ふのは、外相の熟知してゐる限り絕對にかゝる會見は行はれて居らぬ爲であつた。同大臣は尙言葉を續ぎ「事實自分は丁度今しがたバホン總理自身よりの手紙を受取つたところであり、同書簡中には、總理は會つてハウザー氏とクラ問題に就き意見を交換せし事もなければ、又如何なる問題に關しても同氏と

は意見を交換せし事實なし。のみならず總理は該記事に總理自身が持てりとされてゐる何れの意見をも持つてゐない、と強く否定してゐる。」と語つた。プラデイツト外相はまた「以上の様な次第であるから同記事中に盛られた他の點も殆んど論議する餘地なし」と附加された。

併し乍ら、これらの紛々たる諸論に對して、實地踏査の結果、現地の真相を吾々に提供して呉れた記者が二人居る。彼等は何れもクラ地方に於ける開鑿工事開始の情報を事實無根のものとして次の如く述べてゐる。

(11) 聯合通信社エイムズ・エーイ・ミル(一九三八年三月)

數百哩の汽車、象、自動車、自動艇、及び歩行の後、日本がタイ國政府のために戰略的運河を掘鑿しつとあると云ふクラ地峽を踏査した。而して余の言明し得ることは、この話が一から十まで絕對に捏造であることである。夫々運河計畫練東端及び西端と目されてゐるチュムボリーからタブリー(クラブリー)までの間に一人の日本人官吏の影も土人職工も發見し得なかつた。唯一個の石も掘り返へされてゐなかつたし、唯一握の土も亂されてゐなかつた。唯一人の哨兵も目撃されなかつた。運河の代りに余が發見したのは、椰子の森で、そこには無数の野猿が喋つてゐた。クラ地方の百姓は、同運河の話をありと驚きの餘り茫然としてゐた。……クラ地方は、海外に報道されてゐる様に軍用地帯とされてはゐない。汽車の窓を閉ざされることはないし、自動車も自由に通じ得る。余は自ら數多の寫眞を撮つて來た。

(12) 二十世紀誌(上海)一九四一年十二月

私はクラブリーに着いた時、或る新聞記者の報じた大童の活動なるものを想像して見た。その邊りに大童で働いてゐるものと云へば、唯私のために午食を調理する支那人の老婆位であつた。……若し、英國が馬來及びビルマをその勢力下に置いてゐるならば、クラ運河は敵國に對して非常な價値を有するであらうが、英國が軍事上ダイクトリヤ岬よりそれを支配するであらうから、それは價値なきものとなる。併し乍ら若しユニオン・ジャックがこの地方より消え失せるならその時こそ運河の開鑿は可能となるであらう。併し英勢力撤退後の開鑿は寧ろ無益である。……技術的にもそれ以來變化を遂げ、今日では運河は確かに建設され得る。併し乍らそれは尙極めて高度の技術的進歩を必要とする。吾々はみな如何なる費用と犠牲性に於てパナマ運河が建設されたかを記憶してゐる。……貿易商は、航行時間を三、四日節約することによつて、適當な期間内に

明らかに多額の建設費用を償ひ得るかどうか計算せねばならぬ。更に、貿易中心たる新嘉坡がそんなに急速にその重要性を奪はれてしまふものかどうか、或ひは運河完成後でも東亞に於ける船舶の大部分が經濟的理由のため新嘉坡に寄港しないかどうか、と云ふ點は尙あきらかに疑問である。……今日クラ問題は、作り話であり、昔噺であり、又同時に現實の問題でもある。その將來は東亞に於ける他の諸問題の如く、非常な論争の途中に決定せられるのであらう。

右(12)の論文は、大東亞戰爭勃發直前に於ける唯一のクラに關する論文にして、よく東亞の事態を卓見し、戰爭によりすべての禍根が免除さるべきを明確に豫言してゐる。併し乍らその論旨は、單に雅多な問題を一通り提出したに止まり、それに決定的な結論を與へてゐない憾み少しとしない。

併し乍らそれは兎もあれ、前述の如きタイ國側の悲鳴的な否定や、現地踏査による報告文より見ても、クラ開鑿工事なるものは事實上存在しなかつたものゝ如くである。尤も日本人にして或ひはクラ運河掘鑿の夢を秘かに抱いた者があつたかも知れないが、併し計畫の以上に一步も出たものでない事は斷言し得る。又假令その計畫を實行に移そうとしても、掩ひかぶさる様な英國の壓力の下に恐らく採み消されて了つたに違ひないのである。

(五)

然るに、今や世界の表情は一變した。東亞に張りつめた戰機を突き破つて、日本は遂に米英を太平洋と印度洋の彼方へ通走せしめたのである。馬來半島へ押寄せた英國の高潮も干盡して、新嘉坡は我が手中に在り、ビルマはアジヤに歸つた。印度は獨立街道を驀進しつゝある。かゝる東亞に於ける英勢力の没落こそは、英國的羈絆よりの東亞解放であり、アジヤの黎明を意味するものである。そして吾々は、打つて一丸となつたアジヤそのものゝ力もてアジヤそ

のものゝアジヤを建設しつゝある。嘗つて英國東亞侵略の前哨基地たりし新嘉坡は、その名も昭南港と改めて雄々しくアジヤ人の手に返り咲いたのである。

この變轉下に於てクラ問題が如何に變貌し來つたか。その再檢討論が起るのは蓋し當然であらう。

クラ開鑿の可能性については既に述べた如く、再三に亘る調査の結果は、同様に全く否定的な立場をとつてゐる。併し乍ら英國の狼狽、その後の熾烈な論戰、及び現今の如き高度に發達した技術等を考慮に入れば、尙その可能性を眞向から否定する勇氣を挫かれるのである。特にかの困難なるパナマ、スエズ兩運河が、數世紀前に米英佛の手により開通せしめられた事實を思ふ時、關門トンネルに成功し、朝鮮海峡貫通を企圖し、更に亞歐大陸橫斷鐵道をさへ計畫中のわが國技術陣にして距離的にも差程長からぬ地形の地上掘鑿など、ロフタス氏の言ふ如き「一國の富と一世紀の時日」とを要せずとも、「四日にして月に達する機會」を得るに不可能なる事はあり得ないであらう。併し乍らこの技術的能不能は別として、吾々は更に重大なる問題に直面するのである。

若しクラが完全なる運河としての設備を整へ得るとすれば、それが東亞に齊らす利益は頗る莫大なものであらう。先づクラそれ自體の問題より筆を進めれば、タイ灣と印度洋との直線的連繫により、バインコーク、コロンボ間の海上距離は二、一〇〇哩より約三〇〇哩、航海時數は三―五日短縮される。これによつて印度洋を支配すべき我が國の政治的指導力はそれだけ強化せられ、更に本格的な亞歐交通の基調たる獨伊との政治的疎通が實現することとなる。又軍事的にも海軍機動力の増大を見、その防衛はセイロン島及びアングマン諸島の前衛確保により全きを期し得る。ビクトリア岬よりするクラへの脅威もなくなつたのである。更に經濟的見地よりこれを見るに、歐洲諸國との物資交通の飛躍的増大に對する新通商體系の確立には、先づ船舶建造、輸送體系の整備、及び東亞の資源開發の三者を急速

に實現する必要がある。そしてクラ運河はこれらの緩和及び促進に役立つと共に、歐洲に對して低廉なる物資供給をなし得、世界經濟に大なる寄與をなすのである。又タイ國としても、同運河が計畫中の東亞、西亞兩鐵道に對する重要地點にも在る故、そこに都市勃興を見るのは必至であり、首都集中の人口を分散せしめ得る。更にこれによつてタイの奥地は一層開發せられ、バンコック港は世界主要港の列に加へられ、以てタイの國際的地位の向上を齎らして新興タイ國が名實共に出現するのである。

次にこれを昭南港との關聯に於て述べて見よう。吾々は、自己の手によつて世界史上の大轉換を遂げた今日に於ても、クラ運河の開發可能性を信じ乍ら、それが昭南港の繁榮を奪ひはせぬかと懸念する者の居ることを實に殘念に思ふのである。彼等は恐らく政治的、軍事的意味よりも寧ろ經濟的理由より、かく懸念するのであらう。併し乍らクラも昭南港も大東亞共榮圏の一要衝を形成する事に於ては何等異つた點はないのである。

前述の如く新嘉坡の繁榮は、英米の東亞方面よりする連絡路の中央に位してゐた事實に依る處大である。然るに印度洋も太平洋も既に英米の連絡路ではあり得ず、それは現に確乎たる一つの政治圈的存在となつたのである。従つて昭南港は今後、この意味に於ける二大航路を喪失する譯であり、それによる貿易量の減少を見るのは當然である。併し乍ら逆に大東亞共榮圏内の交易體系が確立されるれば、南北諸地方の交通は日に日に頻繁となり、昭南港の伸縮港的重要性は決して失落するものではない。いな寧ろその貿易量は却つて飛躍的増大を見るであらう。従つてクラと昭南港とは本來經濟的には利害對立を來すべき筋合ではなく、相互に補完的關係に立つて、相共に繁榮、隆昌すべきものであらう。

更に又、日本の提唱せる大東亞共榮圏の建設が、アジアの手によつて着々と成功しつゝある時、昭南港の今後に於

ける地位は經濟的意義を越え、政治的意義に於て極めて重要である。即ち地理的にも、經濟的にも、政治的にも、軍事的にも、その發展形態より見ても、我が大東亞共榮圏は北方圈、南方圈、濠洲圈の三部分より成立し、東京―昭南港―メルボルンを結ぶ線がその根幹となつてゐる。從來の所謂南方圈は、馬來半島、大小スンダ列島を周邊とし、臺灣をかねめとする扇形地域を指してゐた。併し大東亞戰爭の飛躍的發展によつて印度は必然的に我が圈内に包含せられるに至り、昭南港を中心とし、印度、印度支那、比律賓、東印度等を含む大圓形が、大東亞共榮圏の一環を形成する南方圈へと擴張發展せしめられたのである。こゝに於ても又、クラの經濟的繁榮と昭南港の政治的繁榮とは夫々別個の問題にその根柢を有することが解る。

併し乍らこの經濟的、政治的意味は別として、彼等のかゝる懸念は根本的に誤謬である點につき次に少しく述べて見よう。

日タイ兩國の親善關係は極めて古いものがあるが、最近に於ける歐洲諸國、とくに英國のタイ國蠶蝕は兩國の間に何等かの不安を注ぎ、卒直な交渉が行はれなくなつた。併し乍ら今次大東亞戰爭の勃發するや、介在する一切の障礙を除去せられた兩國は當然相寄つて未來を約すべき運命にあつた。そして良くこの路を誤らなかつたは、からは今や從來のあらゆる塵埃を濾過して純粹な融合を遂げ、提携和協、地軸も徹れと踏みしめて敵撲滅の大進軍を續けつゝある。かくして轟き渡るアジア全土の雄叫びに、嘗つて「七ツの海を支配する」と豪語せる英國の覇權地に落ち、今や根本的な改革がその七ツ海を席捲しつゝあるのである。

抑々大東亞共榮圏の建設とは、從來の米英的アジアをして「アジア人のアジア」たらしめ、そこに、日本を盟主として諸民族が各々その處を得べき新秩序を樹立し、更に個々の利害を超越して經濟上、軍事上の綜合的計畫の下に、

一體不離、共存共榮の態勢を整ふべき根本理念を有して居り、この崇高なる目的完徹のためにこそ今次大東亞戦争が勃發したのである。されば吾々は、今後つねにこの心もて東亞のあらゆる事象を解決して行かねばならぬ。

然るにクラ運河の東亞に齎らす利益を信じつゝ、尙それがタイ國內に在り、同國に利する處大なる以て、徒らに日本のみ利益を云々するが如きは、唯に大東亞共榮圏の、即ち今次大東亞戦争の眞目的たる共存共榮の精神に背馳するばかりでなく、指導的大國民たるの矜持に悖る狭小なる偏見の持主と云はねばならぬ。

(六)

前章に詳述せる如く、クラ運河が完全なる兩洋連繫的用途を果す時、その東亞の經濟發展に與ふべき貢獻は極めて大なるものがあるであらう。併し乍ら、かゝる完備せる運河は到底望み得べくもなく、この點よりして吾々は、同運河の利用性に關する種々の難題に逢着するのである。それは主として船舶の同運河通過量を周つて生ずる建設費償却及び經營費維持の問題である。

日本工業新聞の報ずる處に依れば、最近タイ運河事業組合が同運河の開鑿計畫を發表、政府の認可を求めてゐると云ふ。その大様を示せば次の如くである。

- 工事期間……………佛曆二四八六年(昭和十八年)十一月より五ヶ年間
- 工事費……………四億圓
- 通航可能最大船舶……………船長八〇〇呎、船幅九〇呎、吃水三五呎
- 事業經營期間……………九十九ヶ年

(第一表参照)

同計畫によれば四億圓を以てその總工事費に當てることとなつてゐるが、開鑿費と共に各種諸施設費その他を考慮すれば、バナマと同様、概略少くとも八億圓程度を要するものと推定されてゐる。そしてその兩洋航路を短縮すべき距離は第二表に示すが如くであるが、これをスエズ、バナマ(第三表)に比すれば極めて微々たるものである。

第二表 クラ地峽通過距離比較

起點	到着港	新嘉坡經由	クラ經由	距離差
プロロンドル群島	ラングリン	一、六一〇哩	一、〇〇六哩	六〇四哩
同	カルカッタ	一、一四〇哩	一、五五四哩	五八六哩
同	マドラス	二、〇九〇哩	一、六一八哩	四七二哩
同	コロンボ	二、〇七五哩	一、七七一哩	三〇四哩

(註) プロロンドル群島はサイゴン直南二哩餘の海上にあり

(港灣二〇卷四號より)

第三表 スエズ、バナマ兩運河通過距離短縮表

起點	經由地	終點	航海距離	短縮距離
バナマ運河	ケーブ・ホーン	ニュー・ヨーク	一六、二五哩	(六、五二哩)(二八日)
同	バナマ運河	同	九、七〇四哩	(六、五二哩)(二八日)
スエズ運河	ケーブ・タウン	ロンドン	一四、六五三哩	(三、五〇〇哩)(一五日)
同	スエズ運河	同	一一、一五三哩	(三、五〇〇哩)(一五日)

(港灣二〇卷四號より)

而して運河通過に要する日時を考慮に入れば、航海時数は昭南港經由の場合と殆んど差異なきものと考へられる。その他クラに關する各種の缺點を挙げれば、その一つは先づ同地帯に未だ良港の出現を見ないことである。すべて運河には、少くともその何れか一方の出口に船舶の碇泊地、その他或る程度の貨物集散地を要するものであるが、クラは今日僅かに漁港チュンボーンを有するのみである。而して同地帯の東岸は砂濱であり、西岸は恰かも我國岩手海岸の如き状況下であり、充分なる港灣設備は望み難い。貿易港としてのバンコクは又メーナム・チャオ・プラヤーを通航すること二〇餘哩の入り込んだ地點に在り、雨期と乾期とによつて門洲上の水深の差が甚しいため、四、五千噸以上の船舶は河口外二五哩のコー・シー・チャンに碇泊して積込又は積卸をなす要がある(シヤム篇より)。従つてクラ運河通過の船舶も同港の利用に多大の不便を感じるのである。これに反して昭南港は、前述の如く既に確乎たる一政治圏の中心であると共に、南洋諸地域の物資集散に最適の位置にある重要性は決して失はれてゐない。その港灣設備は全く完備し、商業都市としての諸要件も既に確立されてゐる。更に背後にビナン港を擁するに於ては如何なる船舶輻輳も恐らくあり得ず、又仲繼港特に積換港としての昭南港の地位は正に不動のものがある。即ち同港は、南方圏に於ける政治的中心であると共に、同圏物資の獨占的集散地であり得、更に歐洲よりする東亞圏の關門として、北方圏、濠洲圏への航路分岐點となり、同航路の中間的補給所でもある。而してタイ國が大海運國としての發展を遂げ、クラ地帯に於て昭南港に代るべき世界的貿易港を建設し、自己の船舶を以て直接東亞及び亞歐交通に従事し得るならば別として、そうでない限り、同航路に就く諸外國船舶は、敢てクラの通過を望まないであらう。歐洲諸國の東亞に求むるものは、一つに南方圏の包藏する各種熱帶原料品に在るのであつて、彼等は恐らくその東亞に提供すべき機械類その他の商品をこの昭南港に齎らし、多くは此處で南方資源との積換へを行ふであらう。従つて昭南港の世界交通

上の地位失墜は全く想像し得ない處である。

以上述べ來つた如き諸事情により、クラ運河を通過すべき船舶数は自づから減少せざるを得ない。然るに同運河の開鑿費を八億圓とし、それに極めて尨大なる經營維持費を加算する時、當然低廉なるべき通過料及び略々同額の工費を要したバナマ運河の通過噸數より見て(第三表及び第四表参照)年間三千萬噸以上の通過貨物量がなければ、經濟的に收支相償はざる結果に陥るであらう。

第四表 スエズ、バナマ兩運河貨物通過量(一九三八年)

運河名	船舶隻數	總噸數	貨物噸數	總收入	一噸當り通過料
スエズ	六、一七一隻	三四、四一八、一八七噸	約二八、七七九、〇〇〇噸	九、五二二、六五〇磅	五志九片
			(最大一九二九年 三四、〇〇〇、〇〇〇噸)	(一、一六、〇〇〇萬圓)	(一、四・三圓)
バナマ	五、五二四隻	二八、〇五八、〇〇〇噸	約二七、三三六、〇〇〇噸	二四、六四七、四〇〇弗	九〇仙
			(最大一九二九年 三一、〇〇〇、〇〇〇噸)	(一、一一、〇〇〇萬圓)	(一、三・八圓)

(港灣二〇卷四號より)

前表に示す如く、クラより遙かに優る事情の下に在るスエズ、バナマ兩運河でさへ、その通過貨物量は二千八百萬噸及び二千七百萬噸である。まして亞歐交通に意義を有するクラが、昭南港よりその一部の貿易量を移したとてその通過量は恐らく三千萬噸たり得ないであらう。

クラの以て建設され得べき要件は、實に以上の如き經營的困難の打破にあるのである。これにさへ成功すれば嘗つて世界に數多の流説を播いた古譚的クラ運河開鑿問題も遂に解決の緒を發見することゝなるのである。(終)

タイの赤十字特志救護團

七二

昨年、タイ國赤十字社の附屬部門として赤十字特志救護團が創立されて以來、國家に對する有力な活動を開始し、僅か一年の中に國內に知れ渡つた。同情深く、國家に對して骨身を惜しまず、そして公共慈善に盡す充分な時間を有する男女が彼等の能力に應じた各部門で奉仕する希望を抱いて團員たる事を志願した。

その部門、種類は左の通りである。

一、管理事業部 二、生産部 三、食物調理部 四、保険部 五、家政部 六、傷痍軍人家族援護部 七、運搬部の仕事に必要な智識を合理的に訓練される。訓練終了後、特志者は習得した経験を實地に行ふ。特志救護團にとつて訓練及び實習は、いざと云ふ場合にその義務を充分合理的に遂行するには缺くべからざる要素である。

特志者は、無報酬で自發的に凡ゆる手段を盡して困窮してゐる人々を助け、更に醵金をし、又その生計を支へねばならぬのである。それ故或る地方に於ては非常に賞讃され、赤十字社の柱石と譽へられてゐる。緊急救済が要求される非常の場合、彼等は直ちに活動を開始する。それは、どんな忙しい時でも局外者を雇ふ必要のない赤十字社側の節約によるものである。上述の理由から特志援助者は赤十字社の柱石と看做され、各地方に創立された團體は政府及び地方民に授護されてゐる。

タイ國赤十字團の一部である特志救護團の創立にあたり、他國に劣らぬ熱誠なる後援を忝くした人々は左の通りである。

一、ブラ・ラーチャオナンナニー・シーサンクウアーイン妃殿下 二、アードーン・テイッパニバー女王 三、アードーン・テイッパヤアーバー殿下 四、モム・コーブケーオ・アーバーカーン・ナーアユッタヤー 五、チャオ・ブラヤ・ビチャーン・ヨーティン大將 六、ルアング・ビブーン・ソクラーム元帥 七、ビブーン・ソクラーム夫人 八、ブラヤー・バホン・ボンバユハセーナー中將

特志救護團は其他に王族、政府役人、實業家、著名人士各位より肉體的、精神的、經濟的の援助を受けてゐる。是等の人々は團の活動増進に協賛を示してゐる。

特志救護團の活動は上記の後援者、理事、中央委員會や全團員の後援努力の下に、平時や非常時の義務遂行に對する訓練の段階より着々と發展しつゝある。

特志救護團はタイ・佛印戰爭に於て、管理事業、藥品供給、裁縫、調理、病人看護、出征軍人遺家族訪問、各種病人の扶養、人や物の運搬等種々の仕事を助ける爲に七部門の特志隊派遣を國防省から許可された。或る隊はワタナ・ナコーンやナコーン・ラーチャシーマーの様な地方の衛戍病院に送られた。特志者は種々の困窮や寄附等に煩はされるとは言へ決して悲觀しない。彼等は平和状態に回復するまでは精根を傾けて働くのである。國王は同團の目覚ましい活躍を嘉賞され、その國家への奉仕に對して八二七名の特志者に功勞章を授與せられた。功勞章授與式は佛曆二四八四年八月十五日スアーン・クラープ宮殿に於て施行され、後援者であるビブーン首相夫人が手づから授與せられた。式は、特志救護團長ルアング・タムロン・ナーワラワットの挨拶に始まり、後援者の答辭の後、特志者は一人づつ功勞章を授與された。式後、お茶の接待があり、更に藝術の演技が行はれた。此式場にはルアング・ビブーン・ソクラーム首相、後援者モム・コーブケーオ・アーバーカーン・ナーアユッタヤー及びタイ國赤十字團副團長や實

七三

行委員が出席された。此事は特志救護園にとつて非常な名譽であり、國家に奉仕してゐる特志者を鼓舞した。平時に於ける團體は赤十字團と協力して緊急救援に備へるべく團員を訓練したり、一般社會の利益に關する事業を行つて團自身の義務を遂行する。團體の主なる直接的貢獻は上述の如くであるが、間接的な貢獻と看做されるものもあらう。總べての特志者はその働きに對し無報酬で國家や同胞を助ける事を希望する共通の目的を持つてゐる。

團員は同じ希望と同じ意見を有してゐるので、團員間の社會的地位は認めてゐるが決して非友誼的な態度を示さない。非常の際に於ける團員の活躍ぶりを見た者は年齢、性、階級、知識標準、職業等の異つた人々がお互に喋りながら共に入り混つて働いてゐるので愉快にされてしまふ。若しも此團體が創立されなかつたら是等の人々はお互に會ふ機會や、知る機會を持たなかつたであらう。故に、特志救護園の間接的な貢獻は結合を助長せしめる事にある。國家の繁榮は主として國民の結合に依る。如何なる國もこの美點を利用し、支持するならば、永久に確固として存立するであらう。

(タイ寫眞畫報、一九四一年八月第三號第一卷)

タイ國大藏省の通貨新規定

佛曆二四八四年緊急時通貨條例第三條により大藏省は次の如き規定を發布した。

- 一、日本圓を第二法定積立金となすこと。
- 二、圓・バート等價條件下の日本向送金に對して大藏省は第一條の條項に従ひ圓紙幣の交換に際し銀行に對して次の諸條件により通貨を發行すること。
- a、正當な取引に於て通貨紙幣を要する事を示す證明書を提出すること。

b、圓通貨紙幣は記入期間内に大藏省特定の銀行勘定に入れること。

c、割引は大藏省の定めた割合により支拂ふこと。

d、一回に請求する通貨紙幣額は五萬バートを下らぬこと。

政府の規定は二四八五年六月十五日に發布され、大藏大臣ポリバン・ユタキツトによつて調印された。

(バンコーク・クロニクル、六月十七日)

タイ國稅務局の收入増加

稅務局の増收を招來せしめた事は知事並びに知事配下の稅務員の努力によることを認めた全縣知事に宛てた回覽狀の中に、稅務局長は次の如く過去十年間に亘る統計を比較してゐる。

佛曆二四七五	
一九、三六〇、四三二・八三バート	
二四七六	一八、一七六、一一五・八八
二四七七	一九、五〇六、四七四・五七
二四七八	一八、八八五、八一五・九五
二四七九	一九、〇三一、九五九・六四
二四八〇	一八、五九一、一八一・八四
二四八一	一九、三一一、一〇七・八五
二四八二	二五、八五一、一六四・七一

二四八三(九ヶ月)二二、三七七、一八五・九三バート
二四八四、三七、三九九、〇四六・四一

(バーンコーク・クロニクル、六月三日)

七六

タイ國新電信料及び郵税

五月三十日逓信省より發布された行政規定によれば次の如く新郵税及び新電信料が決定された。

△二十五瓦までの封書―國內五サタンク、 外國十五サタンク、 國內空便十五サタンク、 △通常郵便葉書―國外二サタンク、 外國十サタンク、 國內空便六サタンク、 △印刷物―國內二サタンク、 外國三サタンク、(五〇瓦又は端數毎に) △商業郵便―國內五サタンク、(二百瓦又は端數毎に) △小包―國內三〇サタンク、 國內空便六〇サタンク、(五瓦又は端數毎に) △電信―國內普通電信十字以内一バート、一字増毎に三サタンク、報道電信十字以内一バート、一字増毎に三サタンク、 △暗號登記料一ヶ月間三バート、二、三ヶ月間八バート、一年間六五バート、
(バーンコーク・クロニクル、六月三日)

タイ國油類の新定價

二四八五年六月十六日、液體燃料局から次の如き告示が發布された。

液體燃料局は油輸入の招來する多額の掛りによつて種々の油に對して左の如き値段を決定した。

ベンゼン

- 一、容器別、一リットルにつき五十サタンク
- 二、一八・五リットル入一ドラム罐九・二五バート
- 三、二〇リットル入一ドラム罐一〇〇バート
- 四、一八・五リットル入一ブリキ罐一〇バート

ケロシン

- 一、二〇リットル入一ドラム罐六〇バート
- 二、一八・五リットル入二ブリキ罐入一函一三・四〇バート
- 三、一八・五リットル入一ブリキ罐六・五五バート

ソーラー油

- 一、容器入一リットルにつき二六サタンク
- 二、二〇リットル入一ドラム罐四五バート

燃料油

- 一、容器別、一リットルにつき二二・五サタンク
- 二、二〇リットル入一ドラム罐三三バート

政府關係、業者、顧客は新價格によらねばならぬ。

(バーンコーク・クロニクル、六月十八日)

七七

タイ國關係雜誌記事

本協會調查部編

- 十二月 (つゞき)
- 泰國に於ける本島人の活躍狀況と其將來 謝騰 縣南 方
 - 一 月 (つゞき)
 - 東亞細亞の資源開發(佛印及泰國) 南支南洋時報
 - タイ國の今昔 リリー・アベック 國際文化協會々報
 - タイ國に於ける米英の文化工作 岩根哲郎 臺灣時報
 - 泰國農業の發展 吉田榮太郎 日本評論
 - 轉換期に直面する泰國の貿易情勢 同 盟解說
 - 泰國に於ける最近の紙幣流通狀況 南支南洋時報
 - 泰國の貿易構成 同
 - 脱皮した泰國 守安新二郎 統制經濟
 - 將來性に富む泰國の各種商品市場 同 盟解說
 - 轉換期に直面する泰國の貿易情勢 國際經濟週報
 - 泰國の新年度豫算 同
 - 華僑與泰國之關係 同 僑聲
 - 泰國華僑之地位 同
 - 有望な投資市場泰國の林産業 同 盟解說
 - 南方共榮圏の諸民族と華僑(二)タイ國 同
 - 泰國に於ける華僑と宗教 服部哲郎 南洋
 - タイ國 井手諦一郎 東洋
 - 太平洋に於ける物資戰略と大東亞戰爭 同

- 小倉一郎 南方
- 泰國に於ける華僑と宗教(ランドン) 服部哲郎 同
 - 大東亞縱貫鐵道(十四)上村義夫 同
 - 二 月 (つゞき)
 - タイ地誌 多田文男 地理學研究
 - 泰國の林産資源 國際經濟週報(廿一日)
 - 起ち上るタイ(上) M・シザラム 國際文化協會々報(廿日)
 - タイの住宅 藤島亥治郎 科學知識
 - 南支原住民族の一考察(五) 持田南容 南方
 - 泰國の錫生産と地質(上) 同 盟解說
 - 泰國の通貨統制法 塚本貞之助 同 盟金屬
 - 農業國タイの氣象 大島圭介の暹羅紀行 臺灣農時報
 - 白象の國——大島圭介の暹羅紀行 小此木壯介 滿蒙
 - 三 月
 - タイの言語について 大矢全節 科學知識
 - タイ自主貿易への新出發 エキノミスト(四日) 識
 - 南方問題座談會 興亞
 - 泰國無血進駐の経緯 石井康 伊タリヤ
 - 泰國事情座談會(一) 貿易情報(三八號) エキノミスト(八日號)
 - タイに於ける國家主義の動向 秋永肇 新亞細亞
 - 泰國に於ける産業の現状と貿易の將來(中) 山本昴司 交
 - 御朱印船 藤田元春 地財
 - 泰國の錫鑛業 鈴木公志 地學雜誌
 - 共榮圏内の食糧對策 同 南洋
 - 共榮圏の棉作問題 立見尙俊 同
 - 印度支那クメール王國(二) ボール・ツウメ 同
 - クラ運河開鑿 赤木格堂 日本及日本人
 - 佛印・泰國生讓栽培事情(一)佛印 金田信武 南洋栽培協會々報
 - 武力と共に科學の力を 德里ツク大使 報道寫眞

- 信天翁記録―泰國憲法博覽會に於ける日本館 觀 光
- タイ國のテラライト ペンドウルトン 地 理 學
- 起ち上るタイ(下) M・シヅアラム 國際文化協會々報(廿日)
- 泰國醫療の一瞥 磯部美知 東西醫學
- 南支那原住民族の一考察(六) 持田南容 南方
- 泰國の水産資源と水産業 H・H生 海洋漁業
- 泰國の漁業 木口浩一 同
- 泰國水産概況 兼友大助 同
- 泰國水産業資料集 同協會調査部 同
- ビョン首相夫人を訪ねて 婦人日本
- 泰・ビルマ國境突破 山本和夫 藝春秋
- 盟邦タイの民族構成 吉田榮太郎 創
- 暹南太平記 柴田賢一 實業之日本(一日號)
- 泰文學の民族的性格 坂本徳松 文庫
- 泰國事情座談會(二) 貿易情報(二日)
- 同 (三) 貿易情報(二六日)
- 泰國に於ける本邦商品狀況(一) 秋友安 同(一日)
- 同 (二) 同(二六日)
- 泰國の新通貨政策 田淵實 國際評論
- その日のビョン首相 岩田冷鐵 現地報告
- マングローブ濕地帯 高松正彦 科學知識
- 佛印・泰國の印象 信太儀右衛門 政界往來
- 南方共榮圈に於ける立體的な高度國防の重要地下資源 吉野楯三 南方
- 歌劇ラーチャマヌー(八、九) ルアン・ウィチット・ワン・タカーン 外交(五一七、八)
- 南方開發の研究座談會 新亞細亞

○タイ國破産法全文(一)

○タイ史話フォールコンとその妻(十一) 郡司喜一同

○Population in East Asia Japan Times Weekly Vol. XI No. 13

- 佛印・タイ・マレーを巡りし 横田實 放送
- 泰國に於ける華僑の地位 東洋經濟新報(八日)
- タイ近代軍隊への成長 陸軍畫報
- 泰國の近世に於ける諸外國との接觸(一) 乾演生 地政學
- タイ東亞金融圈參加の胎動 エノノミスト(十五日)
- 佛印・泰國生讓栽培事情(二) 金田信武 南洋栽培協會々報
- 泰國經濟の再編成 關嘉彦 拓殖論叢
- クラ地峽と運河開鑿に就て 馬來次郎 港灣
- 泰國の鐵道交通構造 藤野義明 地理學
- 予と泰國(泰國に赴く)

○泰、佛印市場素描(繪と文)

- 日泰修交史の回顧 永田直三 知性
- 泰國親善使節の横顔 澤田謙 經國
- 石川昌彦 同
- 洒落を辿るタイの華僑 同
- 泰國に於ける本邦商品狀況(三) 秋友安 貿易情報(四一號)
- 泰國事情座談會(四) 同
- 日泰爲替の等價確立 同
- 泰國親善使節を迎ふ 國際經濟週報(二日)
- 歌劇ラーチャマヌー(一〇、一一、一二) トワン・ウィチット・ワン・タカーン 外交(二日)
- 泰人・安南人との對談 同
- 日泰政治經濟の一體化 藤岡啓 南方情勢
- 日泰經濟協力の前進 同
- 南洋の華僑 宮原義登 新若人
- 盟邦タイの新發足 庄子勇之助 時局情報

○タイ國へ答禮使節派遣

情報局發表(六月二十日午後四時發表) タイ國政府においては先般前總理大臣ピヤ・パホン中將を首班とシタムロン司法大臣、ワニット無任所大臣等より成る使節團を帝國に派遣し日タイ同盟成立に對する慶祝の意を表したるころ、今般帝國政府においては右に對する答禮のため元總理大臣從二位勳一等廣田弘毅を特派大使とし、特命全權大使矢田部保吉以下より成る使節團をタイ國へ派遣することとなり、本特派大使の差遣が同盟の契を愈々強固ならしめ永き傳統を有する日タイ友好關係の鞏化増進に寄與すること大なるべきことを期待するものなり。

慶祝使節團

從二位勳一等 廣田 弘 毅
日泰同盟慶祝答禮の爲特派大使として泰國へ被差遣
從三位勳三等 矢田部 保 吉
任特命全權大使

日泰同盟慶祝答禮のため泰國へ差遣の特派大使補佐のため泰國へ出張被仰付

(外務側)

外務省南洋局長 水野伊太郎
外務書記官 朝海浩一郎
外務書記官 東光武三
外務書記官 三宅喜二郎
大使館商務書記官 丸山眞壽夫

(陸軍側)

陸軍少將 岡本清福
陸軍中佐 門松正一

(海軍側)

海軍少將 岩越寒季
海軍少佐 稻見高男

(その他)

正四位勳三等子爵 三島 通 陽
日泰同盟慶祝のため泰國へ差遣の特派大使隨員被仰付(各通)

○特派大使一行出發

外務省發表(六月三十日) 遣タイ特派大使廣田弘毅一行は本三十日午前九時東京驛を出發せり。
日タイ攻守同盟慶祝答禮のため今般タイ國へ特派されることになつた廣田特派大使、矢田部全權大使は水野首席隨員以下隨員を伴ひ、六月三十日午前九時東京驛發つばめに出發した。驛頭には東條首相、東郷外相、嶋田海相、鈴木企畫院總裁、小泉厚相、寺島遞相、杉山參謀總長、谷情報局總裁、ディレクタタイ國大使等多數の見送りがあつた。(六・三三朝日)

○特派大使一行バンコック入り

外務省發表(七月十日正午發表) サイゴンを出發せる廣田遺奏特派大使一行は本十日バンコック到着の豫定なり

特派大使前首相廣田弘毅氏の一行は七月十日午前十時半(タイ時間)空路バンコック市郊外ドンムアン飛行場に到着、訪タイ親善使節としての第一歩を印した。この日飛行場には早朝から日タイ國旗が翻翻として南風にはためき、飛行場の周圍を彩る新緑の樹木もからりと晴れ渡つた陽光に映えて、珍客を迎

○矢田部全權大使親任式

特命全權大使矢田部保吉氏の親任式は六月二十日午前十時宮中に於いて鈴木國務大臣侍立のもとに執り行はせられた。(六・二二、東日)

○特派大使一行歡送會

タイ國に出發する廣田特派大使、矢田部全權大使等の歡送會が六月二十八日午後六時半から麹町區三年町の外相官邸で開かれた。日本側から主催者の東郷外相、西次官等外務關係者、松平宮相、杉山參謀總長、結城日銀總裁、谷情報局總裁等、タイ國大使館側からディレクタ大使、ワニット無任所相ほか參列、支關右側の大ホール正面に廣田、矢田部兩大使、水野首席隨員以下使節團一行を据ゑて盛大な祝宴に入り、まづ東郷外相が起つて激勵壯行の辭を述べれば、廣田大使が一行を代表し、南方問題の重要な折柄今回の重責を全うする旨の挨拶を述べ、同七時過ぎ散會した。(口繪寫眞參照一六・二八、讀賣)

へるに相應しい光景である。定刻四十分前坪上大使、守屋陸軍左近允海軍兩武官らが飛行場に到着、タイ國側の要人と賑やかな談笑を交はしつゝ、使節團一行の到着を待つことしばし、遙か東方の空に豆粒大の黒點があらはれる。やがて晴れ渡つた青空にピンと左右に張つた見事な鵬翼は、聊かの微動もせず、快適な空の旅を物語つてゐるやうだ。車輪が大地に停止するや否や一人、二人、三人……その中ががしりとした廣田特派大使の姿が一段と大きく眼に映る。東亞の盟主日本から派遣された親善使節が、いまわれ／＼の眼前にあらはれたのだ。禮裝に威儀を正して廣田團長が緑の芝の上に一足、二足を歩を運ぶや、まづ坪上大使が駆寄つて「ようこそ」と固い握手を交す。つゞいて同大使の紹介でブラッテム儀典局長（外相代理）アドック航空司令（航空隊代表）らが進み寄つてそれ／＼歓迎の挨拶をする。長途數千キロにも及ぶ空の旅に、さ／＼かの疲れも見せぬ廣田團長以下の一行は終始晴れやかな微笑をたゞへてゐる。まづ航空儀仗隊の團兵に移り、さらに出迎へた多數の邦人および日タイ兩國旗を手にして繰出した學生隊の「チャイヨー」（バンザイ）を浴びながら一旦控室に入つてタイ國新聞記者團と會見、到着の所感を述べた後十一時三編編成の特別列車で、ドーンムアン驛發、一路バンコーク市への道を急いだ。（七・一一、朝日）

訪タイ使節團一行を迎へるバンコーク・チットラダー停車場

場は永らく停車場としてほとんど使用されず、けふ幾年振りか門を開いたのだ。大きな日タイ兩國旗や色とり／＼の南國の草花に飾られた驛頭に、はびこる首領、ウィットフの外相の空閑儀、さきの訪日使節團長ビヤ・パホン中將や陸海軍總司令官およびかつて日本に滞在するひは訪問したタイ國要人ら文武百官が禮裝もすが／＼しく居並び、この中にウエンドラー・ドイッ、クロラ・イタリア兩公使、さらにインド獨立聯盟執行委員會議員ラス・ビハリ・ボース氏らの姿も異彩を添へる。十一時四十五分列車が無事フォームに迂りこむや、まづ出迎への邦人學童七十名の可愛い萬歳の聲を浴びながら使節團十六名は相次いで下車、廣田團長を先登にしてホームに整列すれば、坪上大使の紹介によつて廣田團長はウィットフ外相と固い握手を交す。つゞいて外相の紹介によつて立並ぶ要人の中からビーン首相が進み出て右手を差出した。廣田大使が固く右の手を握りしめる。言ひ知れぬ感激を無言の握手にこめた首相、温顔の廣田大使の眼が一段と大きく輝けば、まだ青年の如き發潮さをたゞへたビーン首相の陽灼けた顔も紅潮して強い感動が兩代表を包む。……かくて一行十六名はタイ國政府差廻しの自動車に分乘、兩國の旗を手にして兩側に堵列した學生隊ならびに一般市民の「チャイヨー」を浴びながら午後零時十五分一行のために新に設けられたピッサロク街の國賓館に入つて旅の勞を休めた。この日からどの民家でもそれ／＼日タイ兩國旗を掲げ

て一行の到着を心から歓迎した。（同上）

○タイ國々王御近狀

目下スイスに御遊學中のタイ國々王安ナンド・マヒドン陛下には盟邦日本の赫々たる勝利を殊のほか喜ばれ、東亞共榮圏の確立を祈念あらせられてゐるが、さらに盟邦日本の實情御研究と日本語御勉學のためタイ國政府は皇帝の御歸國か日本への御遊學をお願ひすることになつたと傳へられる。御歸國のうへタイ國內に勉學される場合は、日本より講師を招聘、進講申上げられ、皇帝は本年とつて十七歳の御春を迎へさせられ、去る三月ドイツ語科を優秀な御成績で修了せられた由であるので、日本語に對して早い御上達をみることに政府でも期待してゐる。（五・三二、バンコーク發讀賣）

○日タイ間圓決濟協定成る

大東亞共榮圏における資金及び物資の計畫的交流を圖り、大東亞戰爭完遂體制の絕對的確立を期することは刻下の急務であり、政府はその爲の爲替政策においても圓中心主義を樹立したが、今回友邦タイとの間にその決濟はすべて圓を以てこれを行ふ取極めを行ふこととなり、五月二日午後三時半大藏省において實屋藏相とワニット氏との間に正式調印を了し、即日効力を發することとなつた。右協定の主要内容をなすものは、

一、日タイ兩國間の決濟は從來の米英貨又は金による決濟方式を廢し、すべて決濟は圓を以てこれを行ふ。
一、滿洲國、中華民國、南方占領地等の間の支拂も圓によつて決濟する。（五・三、讀賣）

右に關する大藏當局談

日タイ間においては先般圓パーセント等價の協定實施を見たが、更に進んで兩國間の決濟については、從來の米英貨または金による決濟方式を根本的に改むるの要あるものと認め、先般來タイ國側と協議を進めて來たところ、この程意見の一致を見るに至り、日タイ間の支拂はすべて圓を以て決濟せらるることとなつた。なほこれと同時にタイ側は現にわが國との間に圓決濟方式を實行しつゝある滿洲國、中華民國、南方占領地域等との間の支拂についても總て圓によつて決濟するの方針をとることとなり、更に右以外の諸國また諸地域との間の支拂についてもこれ等の國または地域が圓決濟を希望する場合圓により決濟せらるゝの途が開かれることとなつた。右の結果タイ國がわが國に有する圓資金はこれを以てわが國との決濟に使用し得るのみならず、廣く共榮圏内諸地域との決濟にも使用し得ることとなり、更に場合によつてはその他の諸國または諸地域との決濟にも使用せらるゝこととなるのであり、同國のために裨益する所多大なるを信じて疑はぬ。今後日タイ間において經濟上、金融上更に緊密なる提携協力の實

現されんことを希望する。

日タイ間の圓決済協定は七月四日から實施された。(七・四・バ
ンコーク發朝日)

○辭令

大使館三等書記官副領事 天田 六郎
任領事(六)チェンマイ在勤を命ず。(五・六)

○タイ國産業商務兩省新設

タイ國政府は大東亞戰勃發後の情勢にかんがみ、國內産業の
積極的開發に乗出し、産業省の創設を考慮してゐたが、五月五
日右創設を正式に決定し、六日夜公表した。すなはち現在の經
済省を解消して新に産業省と商務省を設けたものであつて、こ
れによつてタイ國政府の省數は十二となつた。(五・七、バン
コーク發朝日)

○タイの航空留學生

昨年八月盟邦タイ國の留學生としてわが國に來朝した青年飛
行將校四人が、五月十五日千葉縣の逓信省中央航空機乗員養成
所に入所、待望のわが荒鷲教育を受ける。操縦士カムロン少尉
(二七)同チャラム少尉(二三)は一昨年末タイ國士官學校卒、

機關士サムラン少尉(二)同ウタイ少尉(三)は昨年三月チエ
ラロン工科大学卒の工學士、いづれも來朝以來この日の
下準備に澁谷區櫻ヶ丘町の青年文化協會櫻ヶ丘學寮で日本語の
勉強をしてゐたもの。(五・一四、朝日)

○タイ國日本に切手を注文

タイ國政府はさきに紙幣を日本に注文し、一部はすでに流通
してゐるが、今度は切手、葉書の印刷を日本に依頼することに
なつた。切手の種類は二、三、五、十サタン、葉書は二、十サ
タンの各種である。(五・一六、朝日)

○新設商務省に六局

タイ國政府は新設の商務省の下に内國商事局、外國貿易局、
商事統制局、商事登録局、商事振興局及び商事情報局六局を設
けることとなつた。なほ外國貿易局長官には渡日中のナリー・
ワニット氏が任命されたが、右は今後の日タイ貿易振興に對す
るタイ國政府の熱意を示すものとして注目される。(五・一七、
中外)

○タイ國・外國語を驅逐

タイ國政府は各公私立學校に對し從來の外國文をタイ語文に
翻譯して後使用すべきを命じ、翻譯完成の時期を今年中に限定

した。これは外國崇拜を一掃するを目的とするものである。

(六・五、バンコーク發、東日)

○タイで外人の廿七種

職業禁止

タイ國經濟をタイ國人の手へと最近タイ國內に熾烈化しつゝ、
ある國民主義の一つの現れとして、タイ國政府は今般二十七種
の職業についてタイ人以外の従事を一切禁止した。現にこの種
の職業に従事してゐる外國人は今後辯護士、理髮師の一箇年を
除いては、いづれも僅か向ふ九十日の營業繼續が許されるに過
ぎない。今回外國人に禁止した職業の主なもの次のごときも
のである。

佛像の製作鑄造、薪、木炭、金屬容器、松明、煉瓦などの製
造販賣、最近服裝令でやかましい婦人帽の製造、婦人服裁縫
師、籠、什器、漆器、タイ彫り、タイ文字植字工、花火、人
形玩具、傘の製造、辯護士、理髮師(六・一二、バンコ
ーク發、朝日)

○タイ軍モンカーク占領

タイ軍はタイ・ビルマ國境突破以來、シャン州の要地を相次
いで攻略、破竹の勢を以て進撃をつけてゐるが、更に要衝モ
ンカークを占領、六月十三日左の如く發表した。

タイ國軍司令部發表(十三日午後一時半) タイ國軍隊はモン
カークを六月十一日占領せり。この街はケンタンの北十四里
の地にあるシャン州の要地なり。(六・一三、バンコーク
發同盟)

○タイ國圓貨を法定準備に

タイ國大藏省は六月十六日付の官報で日本圓貨をもつて法定
準備となす旨左の如く布告した。

一、本令布告の日より日本圓貨をもつてタイ國の法定準備資金
となすことを得
二、タイ國大藏省は銀行に對し次の條件の下にタイ貨一パ
ートを一圓のレートをもつて圓貨と交換す

(イ)交換を要求する銀行は、正當なる業務上の必要により圓
を要する旨申告すること。(ロ)圓貨は大藏省が追つて指示す
る勘定に繰入れること。(ハ)交換にあつては大藏省の追つ
て定める手数料を支拂ふこと。

三、五萬パーツ以下の交換は許可せず。(六・一八、バンコ
ーク發同盟)

○タイ國へ二億圓借款供與

情報局發表(六月十八日) タイ國の金融上および經濟上の地位
を強化するため本邦より二億圓の借款を供與する交渉は、先

般來大藏當局とタイ國ワニット經濟使節との間に進行中であつたが、本日日本銀行およびタイ國大藏省間に契約の調印を見るに至つた。

また同日右と同時に次の發表が行はれた。

借款協定要綱

- (一) 日本銀行はタイ國大藏省に對し、日本通貨を以て總額二億圓を限度とし本協定締結の日より五年以内に借入をなし得べき借款を供與することに同意す。
- (二) 泰國大藏省が右により借入をなしたるときは、右借入金相當金額は日本銀行に設けらるべき泰國大藏省名義の預金勘定(借款勘定)に貸記せらるべきものとす。
- (三) 泰國大藏省は右の預金勘定(借款勘定)より引出し日本銀行より金を買入るゝことを得るものとす。
- (四) 泰國大藏省は右の借入金額に對し年、三分五厘の割合を以て日本銀行に利息を支拂ふものとす。
- (五) 泰國大藏省は借入をなしたる場合その借入額を一度に、または分割して本協定締結の日より五年以内に隨時返済するものとす。
- (六) 本借款の借入をなし得る期間および返済の期間は日本銀行および泰國大藏省間の協議によりこれを延長し得るものとす。

圓決済に關する日本銀行および泰國大藏省間協定要綱

- (一) 泰國大藏省は日本銀行本店に預金勘定を開設す。
- (二) 泰國大藏省が同國爲替集中制度により買却または買入れたる圓爲替の受渡は、前記勘定の借記または貸記によりなされるものとす。
- (三) 泰國大藏省は泰國における日本側銀行の正當なる取引を圓滑ならしめるためその要求ありたるときは、泰國法規の定むるところにより何時にても前記勘定に貸記せらるべき圓貨を對價としてパト貨を供給し、また前記勘定に借記せらるべき圓貨を對價としてパト貨を受取るものとす。
- (四) 前記勘定残高が右二および三の圓爲替買却のため泰國大藏省の必要とする額に不足するときは、日本銀行は追て協定せらるべき限度を以て前記勘定の貸越を認むるものとす。
- (五) 本協定は泰國爲替集中制度實施の日よりこれを實施す。

○タイ國專任外相

タイ國政府は今回專任外務大臣を置くこととなり、六月十九日付勅令を以てウイチット・ワタカーン外務次官を任命した。從來タイ國政府はビーブン首相が外務、國防の兩相並に陸海空軍總司令官を兼任してゐたが、タイ軍のシヤン州進入に伴ふ軍事上の用務多端となつて來たので、今回外務大臣の兼稱を解き、

ウイチット次官を昇格せしめたものである。(六・二〇、バーン・コーク發同盟)

○タイ國革命十周年祝賀會

タイ國革命十周年記念祝賀會が二十四日午後四時すぎ目黒區駒場の同國大使館に催された。東條首相、嶋田海相、橋田文相松平宮相らが相前後してデイレクタ大使夫妻の笑顔に迎へられ、客間へ、そして庭園に降りたつ。近くタイ國へ使する廣田特派大使が矢田部大使と共に獨・伊・滿洲國はじめ樞軸各國大使と談笑してゐる。芝生を圍んだ濃緑の微風に乗つて、留學生の奏でる音楽、屋根にはためいてゐるタイ國旗、芝生のテーパールでは東條夫人とオット、獨大使夫人が微笑を交はしてゐる。海相と通れだつた首相は悠々と模擬店巡り、健啖なデイレクタ大使とおでんの串さしを頬ばり、バグレスコ・ルーマニア公使とビールを乾杯し新興の盟邦の革命記念日にふさわしい風景である。(六・二五、朝日)

○タイ派遣交換學生決定

日タイ學生交換協定による我國側の初の留學生三名が決り、六月二十九日情報局から發表された。同協定は一月十九日財團法人國際學友會とタイ國文部省との間に締結されたもので、四月月中旬一般から志願者を募集、應募者三十一名の中から嚴選の

結果左の三君が採用され、來る九月頃出發、約三年滞在して研究の豫定。

- △富田竹二郎(二四) 研究題目タイ語、大阪外語英語部卒、選科支那語部、現大阪大陸語學研究所員
- △河部利夫(二九) 研究題目タイ國近世史、東北帝大西洋史料卒、現東北帝大助手
- △森良雄(三二) 研究題目熱帯醫學、九大醫學部卒、醫博、滿鐵撫順醫院勤務

○ワニット・タイ使節團歸國

ワニット・タイ國經濟使節一行は七月二日午前一時半台北發空路歸國の途に就いた。(七・三、台北發中外)

○タイ國爲替管理斷行

タイ國政府は七月四日外國爲替管理法に基き省令並に施行細則を公布し、即日爲替管理を斷行した。仕組は大體において現に日本で實施中のものと同様で、骨子は次の如きものである。

- 一、爲替取引はすべて許可制とする
- 一、許可を要する限度は國外持出の場合は一箇月四百パーセント、家族を伴ふ旅行の場合は一干パーセント、また國外からの持入は二百パーセント

一、大蔵省特定の爲替銀行を指定しこれに申請許可の特権を賦與する。目下のところでは横濱正金銀行のみが指定されてゐる。

一、爲替相場を公定し百圓に對して賣値は九十九バート、買値は百一バートとし賣買に二バートの開きをつける(從來の賣買の開きは一バート)(七・五、バーンコーク發朝日)

○タイ國中央銀行開業

タイ國政府はかねて中央銀行設立の準備を進めてゐたが、いよ／＼七月中に舊香港上海銀行あとに本店を開行する運びとなり、新銀行の總裁としてウィワタナチャイ・チャイヤーン殿下が就任されることになった。(七・六、バーンコーク發朝日)

○タイ國遷都決定

タイ國政府ではかねて首都をバーンコークから他の適當な土地に移すべく研究を進めてゐたが、このほど正式にサラブリー市に遷都することに決定した。昭和廿年まではバーンコークから完全に同市に首都が移轉されることになつてゐる。同市はバーンコークから東北百二十キロ、汽車で約五時間、有名な佛陀の都である。遷都後バーンコークは純經濟都市として發展が期待されてゐる。(五・一六、東日)

タイ國首都のサラブリー地區移轉について、タイ國政府は六月二十二日議會開會、二日前に緊急勅令を公布したが、三日の人民議會に首都建設法案として上程され、結局六十一對六の多數で同法案は可決された。(七・五、バーンコーク發朝日)

○タイ、佛印新國境劃定成る

わが國外交史上に一新代を劃し、皇國が大東亞共榮圈の盟主たるの現實をあまねく顯示したタイ・佛印國境紛争に關する調停はめでたく結實し、現地議定書調印式は十一日サイゴンにおいて行はれた。フランス・タイ間の平和條約及び附屬議定書の調印成り、批准交換されてより滿一年、國境劃定委員會はあらゆる障害を克服して國境の實地劃定に、地圖の作成に、境界標識の建設に全力を傾倒し、去る七月二日を以て難事業を完成、かくて作業開始以來滿一年の七月十一日午前九時(日本時間十一時)からサイゴン市廳會議室において日本(矢野)佛印(ロツク)タイ(サヤマカン)各委員長以下全委員出席、現地議定書の歴史的調印式が行はれ、新東亞建設の一つの礎石は固く築かれた。三國委員が北部國境から蜿蜒メーコン河に沿ひ、ラオス、カンボヂヤの秘境二、三キロにわたつて、兄弟の如く助け合ひつゝあつた一年の間、歴史はめまぐるしく轉換し、大東亞戰勃發、日佛印共同防衛、日タイ攻守同盟と新秩序建設の歩武が耳をとどるかすとき、記念すべき調印の日を迎へたので

ある。委員の感概は無量なるものがあらう。この日定期市廳舎に着いた矢野混合委員長は包みきれぬ喜悅を浮べつゝ佛印側委員長ロツク、タイ側委員長サヤマカンの兩氏らと感激の握手を交した。正面の大日章旗を中心にタイ・佛兩國旗が莊嚴に掲げられた調印式場に三國委員が肅然とならび、矢野議長の開式の辭あつて調印に移り、佛領印度支那・タイ國境劃定に關する議定書、非武装地帯に關する議定書および最終議定書の調印を行ひ、矢野議長および佛印・タイ兩國首席委員はそれぞれ演説を試み、同演説は議場のマイク・クロフォンを通じて各地に放送された。(七・二、朝日)

○在タイ華僑重慶へ忠言

支那事變五周年を迎へて在タイ二百五十萬の華僑を代表する中華總商會以下各會の代表は七月六日午前バーンコークに會合し、蔣介石及び重慶各戰區司令官に對し「無益の抗戰を放棄し日本と合作して大東亞建設に邁進せよ」と七日附を以て通電を發した。(七・六、バーンコーク發朝日)

○タイ國・國民政府を承認

タイ國政府は今回南京國民政府を承認することに決し、支那事變五周年記念日の七月七日午前零時タイ國外務大臣ウィット氏から國民政府外交部長褚民誼氏宛左の正式通告を發した。尙同日通告文發表と同時にコミュニケも發表された。

タイ國および中國兩國は古くより緊密なる關係を有するが故に、かつタイ國はアジアの福祉繁榮の確立に關與してゐるが故に、タイ國政府はアジアにおける全民族の精神的結合を希求するものに有之候、この故にタイ國皇帝陛下の政府は、南京國民政府の承認を決定したり。仍て本大臣はこゝに本承認を閣下に通告するの光榮を有し候、本大臣はこゝに閣下に向つて敬意を表し候。

一九四二年七月七日

タイ國外務大臣 ウィット・ワタカーン
國民政府外交部長 褚民誼閣下

コミュニケ

タイ國政府は強固なる東亞を建設しならびにアジア諸民族をして一心同體、協力一致、將來の安寧と平和とを招來する道を希求し、その重要な一員たらんとする熱烈なる希望を有するにより南京にある中華民國政府を承認するを適當と認め、外務大臣ウィット・ワタカーン閣下をして中華民國國民政府外交部長褚民誼閣下に對し佛曆二千四百八十五年七月七日附を以て左記電報を發したり。よつてタイ國政府はタイ國民ならびにタイ國在留中國人が兄弟のごとく協力敬愛し兩國の友好關係を保持し、兩國の永久的平和ならびに繁榮の建設に協力協心せられんことを希望す。(七・八、バーンコーク發朝日)

協會記事

九二

○遣タイ慶祝答禮、使節と本協會

暎にタイ國のビヤ・パホン中将以下日タイ同盟慶祝使節派遣に對する帝國の答禮使節派遣に就ては雜報欄所載の通りであるが、右使節として任命された特派大使廣田弘毅氏は本會名譽會員、特命全權大使矢田部保吉氏は理事長、隨員三島通陽子爵は常務理事であつて、新東亞建設上意義深き今回の舉に對し、本會から三氏が名譽ある任命を受けたことは、本會としても光榮且つ欣快に堪へざる所、茲に謹んで會員諸賢に御報告申し上げると共に、大使一行の無事大任を果して歸朝されんことを祈念して敬まざるものである。

○パホン使節禮電並に

本會々長、理事長答電

先般來朝した日タイ同盟慶祝タイ國特派使節ビヤ・パホン中

將は無事使命を果して歸國と共に、五月二十三日附本會近衛會長並に矢田部理事長宛左の如き禮電を寄せ來つた。

近衛公爵閣下

盤谷ニ安着閣下ノ御厚意ヲ深謝ス予ハ閣下ニ對シ深甚ノ謝意ヲ呈シ御健康ヲ祈ル

ビヤ・パホン

矢田部理事長閣下

盤谷ニ安着閣下ノ御厚意ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表ス

ビヤ・パホン

右に對し近衛會長、矢田部理事長より各々左の如き答電を送つた。

御安着ヲ祝シ閣下ノ御健康ヲ祈ル

○日タイ親善文化の集ひ

六月七日午前十一時より池坊華道本部、本協會共同主催のもとに根津美術館に於て園遊會「日タイ親善文化の集ひ」を開催、タイ國デイレク大使、折柄來朝中のワニット無任所大臣、ヴ

イラヨーター駐滿公使、駐在武官ソラキット少將初めタイ國留學生、本協會關係者多數來會、先づ矢田部本協會理事長より開會の辭として「同盟國日タイ兩國が親善の契りを益々固くする爲には相互に文化交流を圖る必要あり、今回の試みたる華道の紹介は日本文化の一部面を紹介する上に最も有意義なる催はしたる事を信じて疑はぬ」との趣意で一場の挨拶を試み、これに對してデイレク大使は左の如き謝辭と感想を述べ、續いて華道家元池の坊専威總裁より華道に關する講話をなし、これに基いて同流華道の實演を公開し、餘興に入り、花柳徳兵衛氏一門の日本舞踊、川上鈴子のスペイン・ダンス、コロンビヤ專屬歌手渡邊はま子の獨唱等多數の演技があり、和氣瀟々として日タイ兩國人の完全なる融合のもとに一日の歡を盡した。

デイレク大使の挨拶

皆様

今日皆様の心からの御款待に預り共に楽しい親善の一日を過し得ました事は誠に欣快、光榮に絶えない次第であります。御招待に預りました一同に代はりまして主催者の方々に厚く厚く御禮申上ます。

タイ國と日本との親善は大東亞の平和並に共榮圈確立に當り日と共に重大性が加はつて参りました今日、日本タイ協會が貴我兩國の親善のより一層緊密を計る目的をもつて今日の集ひを開催されました事は實に重大意義があると存するの

であります。貴我兩國が直面して居ります戦時の現状に於きまして何よりも兩國間の緊密が要求され政治的、社會的、經濟的、軍事的、あらゆる方面に共存共榮して、相互に固く結び合ねばならぬのであります。

國の交はりに於ては種々の難問題が生ずる事と存しますが、良く事態を考察し互ひに譲り合はねばならぬと存じます。今申上げましたる親交は、國策遂行上即ち國の交はりでありまして、他面に於て、貴我兩國間の文化を通じての交はりがある事をわすれてはならないのであります。政治的、經濟的、軍事的の親善は物的、人的のものであるに反し、文化親善は實に精神的のものであり、表面のみならず深く深く心の中に永遠にきざまれるのであります。

日本の文化は數千年より傳はり、又タイ國の文化も數十世紀より先祖代々傳はり今日に至つたのであります。しかも最も喜ばしい事は、貴我兩國は同じ亞細亞洲にあり兄弟の如く隣接して居るのであります。

一つの國の文化を他の國に紹介する事は親善上誠に重大なものであると存じます。

私は先程矢田部理事長より數々の御高説を承はり誠に欣快に絶えない次第であります。又貴我兩國政府は文化が持つ重大性を早くより感知し文化親善に多大なる努力を拂つて参つたのであります。日本タイ協會は兩國の間に立ち名實共に最も

適切な文化團體であり、現在迄努力して参られ今後共我等兩國民族の爲め益々御奮闘あられる事と存じます。

今日の「日泰親善文化の集ひ」の會は協會が其の崇高な目的を遂行するに當り開催されたものでありまして、如何に協會が文化親善に専心御努力なされたるかを察し得られるのであります。先程華道家元池坊専威氏より華道に付き参考に供す可き御高説を拜承し誠に有難う存じます。私は當地へ就任するに先立ち、タイに於て華道を研究したのであります。私は當時より日本のもつ強味は國民性の充實にあり、根源をなすものは實に強固なる家庭であり、家庭を護る婦人に掛かつて居ると信じて居つたのであります。華道は實に日本婦人の崇高なる姿、眞の美が何はれ言語にて現はしつくせない感慨無量の念に打たれるのであります。次に拜見します催物もことごとく我等一同にとり最も興味深いものと存じます。最後に我等一同に楽しき一日並に種々の知識獲得の機會を與へてくださりました日本タイ協會、華道家元池坊並にコロムビア社及び本館を此の集ひに提供されました根津美術館に對し深く深く御禮申し上げ私の挨拶を終はりたいと存じます。

○矢田部理事長のタイ國革命記念日祝賀放送

六月二十四日タイ國革命十周年記念日に際し、該革命と因縁

淺からざる矢田部理事長は、同夜タイ國向國際放送に於て、日本會場通譯の下に次の如き祝賀放送を行つた。

日本の盟邦タイ國は、本日を以て、立憲制度樹立滿十年の記念日を迎へたのであります。此の十年間に於て、タイ國が内外庶政の上に成し遂げましたる治績は、茲に一々枚擧するに遺なきものがあるのであります。殊に不平等條約の改訂や、日本との友好親條約の締結などに依るタイ國の國際的地位の向上は、極めて顯著なるものがあつたのであります。

更にタイ國が、佛印からの失地回復に成功しましたことは、革命新政の基礎を頗る鞏固ならしめたと同時に、東亞民族の自主的地位確保の爲めに、大に氣を吐いたものであります。日本國民の擧つて快哉を叫んだところでありまして、タイ國民の要望達成の爲めに、日本が幾分かの寄與を爲し得ましたことは、日本全國民の頗る本懐とする所でありまして、

昨年十二月八日、大東亞戰爭の勃發すると同時に、日タイ攻守同盟が成立いたしました。爾來兩國は、あらゆる方面に涉つて、最も緊密なる提携の下に、米英勢力の二掃に邁進いたして居るのであります。が、タイ國としても、正しく、國運勃興の絶好の機運に際會いたしましたものと申さねばなりません。

此時に際して、新政十周年の記念日を迎へますことは、東亞の新秩序建設を以て理念とする新政タイ國にとりまして、又同時に、同じ理念に立脚するタイ國の盟邦日本にとりまして、

誠に意義深いものと申さねばなりません。

私は、タイ國の政府も國民も、十分なる満足も以て此の日を慶祝せられつゝあることを信じて喜びに堪へないものであります。

茲に此の意義深き新政十周年の記念日を迎ふるに當りまして謹んで滿腔の祝意を表すると共に、タイ國家の興隆日と共に益々旺んらんことを衷心より御祈り申し上げます。尙既に發表せられました通りに、日タイ同盟慶祝の爲めに廣田特派大使が近くタイ國へ使することになつて居りますが、私も特派大使輔佐の爲め、再びタイ國を訪問して、朝野の舊交と友情を温める機會に恵まれることとなりまして、欣快至極に存じて居る次第であります。その日の一日も速かならんことを念じて居るのであります。

○情報局第一回補助金下附

豫て申請中の昭利十七年度情報局補助金は、今回第一回分として金七千五百圓也下附された。

○廣田元首相を

名譽會員に推舉

今回寄付行爲第十五條第一項に基き、理事會の決議に依り、

六月二十五日附近衛會長名義を以て元首相廣田弘毅氏を本協會名譽會員に推舉す。

○理事會、評議員會開催

六月十二日本會理事會並に評議員會を開催し、會務につき協議した。

○役員の変更

別項の如く評議員三好重道氏は五月二十八日逝去せられた。依て評議員一名缺員となる。

○會員の異動

- 新入會員(五名)
 - 特別會員 野間 省一殿(東京) 大日本雄辯會講談社常務取締役
 - 維持會員 昭和通商株式會社殿(東京) 締役
 - 同 堀 三也殿(東京) 昭和通商常務取締役
 - 同 宮田 準一殿(東京) 昭和通商常務取締役
 - 同 藤間 節子殿(東京) 舞踊家
 - 同 吉田 清重子(東京) 青年文化協會參事
- 退會々員(三名)
 - 郷 隆三郎殿 昭和十七年五月八日逝去

三好 重道殿 昭和十七年五月二十八日逝去
 深尾隆太郎子 昭和十七年六月二十六日附

○會員の消息

△近衛文麿公(會長) は五月二十日大日本興亞同盟名譽顧問に就任さる。
 △坪上貞二大使(名譽會長) は本省に報告のため歸朝中であつたが、五月三十一日午前十時十八分羽田空港發、六月六日午前九時十五分バンコクに歸任さる。
 △伊東二郎九子(理事) は五月二十日貴族院協議員に就任さる。
 △岡部長景子(理事) は大日本興亞同盟審議員に就任さる。
 △向井忠晴氏(理事) は翼賛政治會評議員に就任さる。
 △古田俊之助氏(理事) は同會評議員に就任さる。
 △船田一雄氏(理事) は同會評議員に就任さる。
 △淺野良三氏(理事) は同會評議員に就任、なほ今回日本鋼管株式會社社長に就任さる。
 △酒井忠正伯(理事) は五月二十日貴族院研究會調查部長に就任さる。
 △北島多一醫博(理事) は翼賛政治會評議員に就任さる。
 △細川謹立侯(評議員) は翼賛政治會評議員に就任さる。
 △有田八郎氏(名譽會員) は同會評議員に就任さる。
 △津田信吾氏(維持會員) は同會評議員に就任さる。

△大河内正敏子(通常會員) は同會評議員に就任さる。
 △新田義實氏(通常會員) は瀬戸氏の後を襲ひタイ國日本商工會議所會頭に就任さる。
 △桑島主計氏(通常會員) は六月二十日大日本興亞同盟副理事長に就任、更に翼賛會興亞局企畫部長に就任さる。
 △山岡萬之助法博(通常會員) は貴族院研究會協議員及び翼賛政治會評議員に就任さる。
 △阿部信行大將(通常會員) は五月十八日貴族院議員に勅任さる。尙六月二十日大日本興亞同盟常任顧問に就任さる。
 △三好重道氏(評議員) は五月二十八日午後十時三十分心筋硬塞症のため牛込區市ヶ谷仲之町五七の自邸で死去さる。享年七十二、畏き邊りでは、同氏の生前産業界に盡せる功績渺なからざるを思召され、六月六日特旨を以て位三級追陞の御沙汰あらせられた。
 △柳隆三郎氏(通常會員) は南洋事業地開發の使命を帯び勇躍壯途に就かれたる處不幸五月八日東支那海上に於て遭難殉職された。

○財團法人日本タイ協會
 總裁及役員並職員

總裁 秩父宮 雍仁親王殿下
 名譽總裁 アーテイト・テイプ・アーバー殿下
 會長 公爵 近衛 文麿
 名譽會長 公爵 レック・チャイヤナム
 駐タイ國日本大使 侯爵 德川 賴貞
 副會長 子爵 伊東 二郎
 理事 子爵 三島 通陽
 常務理事 子爵 大倉 喜七郎
 理事 子爵 岡部 永太郎
 同 子爵 岡部 長景
 同 子爵 萬見 左吉郎
 同 子爵 向井 忠晴
 同 子爵 古田 俊之助
 同 子爵 伯爵 船田 一雄

理事 同 伯爵 齋藤 良三
 同 同 酒井 忠一
 同 同 北島 多一
 同 同 醫學博士 門野 重九郎
 同 同 醫學博士 藤山 愛一郎
 同 同 子爵 井上 雅二
 同 同 子爵 伊東 二郎
 同 同 子爵 犬丸 徹三
 同 同 侯爵 細川 護立
 同 同 公爵 岡部 長景
 同 同 子爵 河井 村八郎
 同 同 子爵 加藤 勝太郎
 同 同 子爵 加藤 泰通
 同 同 文學博士 高楠 順次郎
 同 同 子爵 南條 金雄
 同 同 子爵 黒田 長景
 同 同 子爵 伯爵 倉田 猛清

